財団法人 東洋文庫年報

昭和58年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和58年度

目　　次

Ⅰ　昭和58年度の東洋文庫 …… 3

Ⅱ　図　書　事　業 …… 5

1.　図書資料の収集 …… 5

2.　図書資料の保存整理 …… 5

3.　図書資料の閲覧 …… 6

4.　資料複製増刷サービス …… 7

Ⅲ　研　究　事　業 …… 8

1.　調　査　研　究 …… 8

ⅰ　文部省科学研究費による調査研究 …… 8

ⅱ　一般調査研究 …… 9

ⅲ　特別調査研究 …… 11

ⅳ　研究委員会 …… 12

2.　学術図書出版 …… 13

3.　講　演　会 …… 14

4.　研　究　会 …… 14

5.　研究者養成 …… 15

6.　国内・国外研究者への便宜供与 …… 15

ⅰ　国内研究者の受入 …… 15

ⅱ　外国人研究者の受入 …… 15

ⅲ　外国人・外国人研究者への便宜供与 …… 16

7.　職員の研究業績 …… 21

Ⅳ 業 務 報 告 …… 36
1. 総 務 報 告 …… 36
2. 人 事 報 告 …… 38
Ⅴ 役職員名簿 …… 40
1. 役　　員 …… 40
2. 東洋学連絡委員会委員 …… 42
3. 名誉研究員 …… 43
4. 職　　員 …… 43
5. 臨 時 職 員 …… 46
Ⅵ 財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 …… 47
1. 調査研究事業 …… 47
2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動 …… 53
3. 出版物の作成 …… 57
4. 業 務 報 告 …… 61
5. 役職員名簿 …… 64

I　昭和58年度の東洋文庫

昭和58年度の東洋文庫についての最大の出来事は新書庫と事務棟とが竣工したことである。竣工祝賀式は4月27日に行われたが，新書庫についてはなるべく乾燥させる必要があるので，3月10日から閲覧を停止し，9月1日から再開した。

新書庫は半地下を含めて6階。旧書庫の残存部分（5階）と併せて，面積延4,091平方米02，旧書庫の総面積延3,143平方米88に比べて約947平方米の増加である。

新書庫は広くなり，書物及び人員運搬用のエレヴェータ2台，これに書物専用のエレヴェータ1台が加えられて合計3台，更に冷暖房設備・消火装置が整えられた結果，著しく近代化した感がある。しかし，旧書庫の最も新しい部分をそのまま新書庫の一部として利用し，そこに置かれた書籍は移動せずもとのままとし，その他の部分については，閲覧頻度の多少を考慮して，多い部門は新しい閲覧室の近くに置くという処置をとった結果，排架は旧書庫のそれと相当に異なるに至った。

旧書庫の排架に慣れた者にとっては，若干の不便が感ぜられる。書籍の排架のみならず，身辺の日用のものの配置は，慣れてしまえばどこにあろうと余り不便を感じない筈のものであるが，こうした大移動を余儀なくされると，書庫の整備はそれを利用する人の頭脳や知識の整備に深く関連していると今更のように感ぜられる。

外部から来て，閲覧掛に必要な書籍を注文し，出されるに従ってそれを利用する人にとっては，目録の整備こそ必要であろうが，書物が実際に書庫にどの部分に置かれていようと，与り知るところではないであろう。しかし書庫に出入して書物を出し入れする者にとっては，排架の順序そのものが目録の用をなすのであって，排架が合理的になされていることが何かにつけて便利である。この意味で書籍の排列は知識並びに情報の排列そのものであると言って言い過ぎではないであろう。新書庫で書物を捜すのは，何となくアルファベットの順序を入れ違えて製本された辞書を引いているような思がする。

しかし，新書庫にはいくつかの利点がある。その最大のものは窓がぴちっと閉って外界の埃が入らず，内部が乾燥していることである。旧書庫は戦後老朽化がひどく，多くの窓が十分に閉らず，外の埃が入って書物の汚れが早く，特に半地下及び地上1階は濕気が甚しく，書籍の表紙にしみが出来たり，黴が生えたりすることが多く，濕気や黴の除去に何回か大がかりな処置を繰返したのに，期待した効果が得られなかった。新書庫はそうした旧書庫の面目を一新し，蔵書の保全によりよき環境を提供しつつある。新書庫も旧書庫と同じ地域にあり，その方位も相似たものであるが，こうした差異が生ずるのは，要するに建物が新しいためであろう。

これによって，これまで東洋文庫を悩ませて来た重要問題の一つが解決の方向に向った。新書庫の完成は東洋文庫の新しい出発を意味する慶ぶべきことがらであるが，問題はその新しい書庫に収容すべき図書を如何に新しい東洋学の研究に対応させて行くべきかということである。本年度の図書資料が前年度に比して約1万冊を増加したことは，別項図書事業の条

に記されているとおりである。中でもトルコ・アラビア・ペルシア関係の現地資料が一層の充実を加えつつあることは，この種の纏った資料の蒐集に乏しい我が国の学界にとって慶賀に堪えないところである。特に今回の所謂革命に当ってイランでイラン人によって刊行された大小さまざまな文献の蒐集は，他に類を見ないために，米国を始めとする諸国からその一括複写を求められつつある。戦前これら地域の関係図書が卒直に言って代表的書物の見本の蒐集程度に過ぎず，現地語書籍に至っては，正に寥寥として晨星の如しと言った状態にあったのに比べると，誠に隔世の観がある。

東洋文庫に所蔵されるトルコ・アラビア・ペルシア語の書籍については，それぞれ目録が刊行され，さらに追加の目録が編輯されつつあるが，東洋文庫はこの一両年ペルシア語書籍の組織的蒐集に力を注ぐ一方，京都大学と協力して，日本全国の公の機関に収蔵されているペルシア語書籍の総目録を編纂した。第一巻書名目録，第二巻書名・著者名索引の二冊から成る。第二巻は昭和60年度に刊行される予定であるが，第一巻は昭和58年12月25日に印刷を完了し，紀伊国屋書店から発行された。縦26糎，横18糎，本文 781 頁の大冊で，日本語名を「日本国ペルシア語文献所在総目録，第一巻」と言い，ペルシア語名を**Fefrest-e Ketābhā-ye Chāpī-ye Fārsī**と謂う。昭和58年8月現在の，東洋文庫・京都大学を中心とする日本の約70の研究機関に所蔵されるペルシア語刊本の目録であって，その体裁においては勿論，諸外国の諸機関の蒐集の手の及ばない1980年代の刊行物多数を含んでいる点においても，日本が世界に誇るべき東洋学関係の目録の一つと考えてよいであろう。

こうした西アジア関係の書籍の蒐集のほかに，東洋文庫には河口慧海師のコレクションを中心とするチベット語文献の大蒐集がある。チベットが中華人民共和国によって占領せられ，ダライ＝ラマを始めとするチベット人がインドに亡命した。そして亡命チベット人が携帯した多くの内典外典の複刻が行われて，チベット研究の資料を急激に増加せしめつつある。これら複刻の多くも，関係者の努力によって東洋文庫に集められつつあるので，東洋文庫は近い将来においてその所蔵のチベット語書籍の総合目録を編集刊行することを計画している。

満洲語・蒙古語の文献，大陸及び台湾で刊行せられる漢文資料も，日本国内で刊行せられる東洋学関係の書籍も，重要なものは出来るだけ集めるよう努力しているが，独り南及び東南アジア地域に関しては，故辻直四郎博士のインド学関係欧文書籍１万２千点が博士の遺志に基づき遺族から一括寄贈せられ（昭和57年度），17，8年以前，在バンコックの篤志家松田嘉久氏の出資と現京都大学教授石井米雄氏との助力とによってタイ語の歴史関係の文献の一括寄贈を辱くした以外，特記すべき増加を見ていない。

東洋学とはアジア研究のことである。そのアジアに地域と人種とを異にする多くの国家や民族が古くから存在することは言うまでもない。それらの諸国家・諸民族が20世紀，殊に第二次大戦以後，互に密接な関連交渉をもつに至ったことは，周知の事実であるが，そうした関連交渉は太古から存したのであって，アジアの地域や民族についての研究には，常にその周辺の国家・人種についての知識が必要なのである。東洋文庫の蒐集がアジアの全域に及んでいるのは，決して徒らに地域の大と住民の多とを包摂しようとしているのではない。図書資料の蒐集には見識と財力とが必要であるが，新書庫の完成を機に，研究部・図書部の全力を結集して東洋文庫の蒐集を充実して行きたいものである。

Ⅱ 図書事業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料のほか，特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり，昨年度より9,867冊増加した。しかし，財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるため万やむを得ざる措置として，廣橋家旧蔵文書154点を国立歴史民俗博物館へ譲渡したため，蔵書数は642,274冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	計
一般文献資料	1,075冊	148冊	1,223冊
中央アジア特別研究資料	1	483	484
東アジア特別研究資料	1,180	131	1,311
西アジア特別研究資料	0	1,098	1,098
計	2,256冊	1,860冊	4,116冊

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本（冊）	902	322	1,224	1,043	147	1,190
定期刊行物（冊）	3,599	928	4,527	551	68	619
計	4,501	1,250	5,751冊	1,594	215	1,809冊

2. 図書資料の保存整理

・製本数量

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

区　分	単　行　本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	そ　の　他
数　量	65冊	2,535冊	864冊	183冊	451冊

・撮影・焼付

区　分	撮影コマ数	焼付引伸枚数
数　量	15,695コマ	40,845 枚

3. 図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度は，書庫並びに事務棟の増改築竣工後，新書庫の乾燥，図書・閲覧室等の移転のため，8月31日まで休館して，9月1日から新閲覧室において，新体制で開館した。以後の所蔵図書の利用ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）
9	23日	352人	15強人	△ 63人	6,239冊	271強冊	786人
10	24	465	20弱	90	7,080	295	2,399
11	22	513	23強	98	7,850	357弱	2,462
12	22	455	21弱	105	6,516	296強	2,975
1	21	260	12強	34	4,845	231弱	1,022
2	23	363	16弱	△ 94	4,191	182強	3,600
3	25	352	14強	47	5,699	228弱	△ 542
計	160日	2,760人			42,420冊		

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
9	198	338	968	5,639	157	262	1,323	6,239
10	399	609	980	5,923	285	548	1,664	7,080
11	419	641	1,162	6,620	277	589	1,858	7,850
12	392	678	922	5,342	357	496	1,671	6,516
1	144	231	717	4,422	128	192	989	4,845
2	334	509	610	3,216	255	466	1,199	4,191
3	406	836	612	4,504	159	359	1,177	5,699
計	2,292	3,842	5,971	35,666	1,618	2,912	9,881	42,420

4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧の便に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
647件	76,758駒	104,723枚	211,717駒

・電子複写

申込件数	撮影枚数
902件	53,674枚

Ⅲ　研究事業

1.　調査研究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

ⅰ　文部省科学研究費による調査研究

一般研究(A)

【課　題】　ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究

【期　間】　昭和58年度（３ヶ年継続事業第二年度）

【目　的】　ここでいうユーラシア，すなわち北アジア・中央アジア・西アジア・南アジア・東アジア及び東ヨーロッパという，各地域に関する個別の歴史学的・文献学的研究は，我が国においても近年とくに著しく発展し，世界のレベルをリードする分野も少くない。しかし，これらの地域の歴史は，決して孤立して展開してきているわけではなく，相互に強い影響を与えあって現代に至っていることは疑いない。加えて，近年の各国における実地調査の成果も活発に現われはじめ，ユーラシア地域に共通する社会史上の諸要素が抽出されてきている。そこで，本研究では，その諸要素のうち，現代に至るまでの時代を通じるものとして，遊牧・農耕・通商の３点に注目した。この観点に立って，まず第一に，近代以降に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究を行い，現在わが国に存在しないものを中心に収集に努める。第二に，近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査研究及び収集を行う。財団法人東洋文庫は，既にユーラシア地域研究の一大センターとして機能しているが，その充実と，今後ますます増加すると思われる研究者への便宜のために，本研究の最終目的は，今後のわが国及び外国のユーラシア社会史研究にとって着実で実効のある指針を提示し，かつ，収集した資料・図書を整理したうえで公開する、という二点にある。

【事　業】 本年度は，次のような活動を行なった。

㋑近代以後に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究を行い，現在，我が国に存在しないものを中心に収集し，文献整理カード化した。

㋺近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査研究及びマイクロフィルム資料を含めた資料の収集を行ない，同じく文献整理カードを作成し，ともに一般公開できるように整備した。

㋩随時に，研究会を催し，各分担研究者の調査・研究の成果，及び収集された資料に基づいて相互討論を重ね，ユーラシア社会史研究の方法・キーポイントを一層鮮明にすることができた。

【代表者】 榎　一雄

【分担者】 統　　　括：榎　一雄
北アジア班：松村　潤，岡田英弘，護　雅夫
東　欧　班：護　雅夫，永田雄三
西アジア班：永田雄三，後藤　明，志茂碩敏
東アジア班：神田信夫，田中正俊
中央アジア班：榎　一雄，梅村　坦

ii 一般調査研究

本年度は，特に，明代史研究委員会，近代中国研究委員会を中心に調査研究を行なった。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に，日本の部，中国の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行なった。）（前年度の継続）

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 ⑴ 国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

⑵ 内外の諸機関，研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，情報の提供。

⑶　内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

第１回　６月18日（土）　川崎ミチコ「所謂，敦煌文定格聯章類（五更転・百歳篇・十思徳）文献について」

第２回　９月24日（土）　呉　其昱「フランスにおける最近の敦煌研究」

第３回　２月４日（土）　池田　温「敦煌・吐魯番文書初探（武漢大学編）」

伊藤　伸「書体の構造とその変遷 ― 楷書成立をめぐって ―」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】⑴　宋代研究文献目録及び速報の作成。

⑵　『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

⑶　『宋史』選挙志の研究並びに同研究会の開催。（以上，前年度の継続）

明代史研究委員会

【研究・整理】⑴　謝肇淛『後鑑録』（明史資料叢刊第一輯）を主として，明代政治・社会に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）

⑵　『明代各種経世文目録』の作成。（以上，前年度の継続）

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【研究・整理】⑴　「旧満洲檔」・「満文老檔」の整理研究。

⑵　「鑲紅旗檔」，乾隆朝（後半部分）の整理。（以上，前年度の継続）

近代中国研究委員会

【研究・整理】⑴　中国共産党資料の書誌的研究及びその他収集した近・現代中国関係資料の整理・研究。

⑵　清末外交文書研究会の開催。（以上，前年度の継続）

⑶　近・現代中国にかんする新聞報道の研究。

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】　近代化過程における欧米列強と東アジア乃至日本との国際関係，および近代日本と大陸諸民族との国際関係について，国際政治のみならず，国際経済の資料をも収集し，これらの世界史的性格を総合的に研究する。

朝鮮研究委員会

【資料の整理・研究】⑴　李氏朝鮮の財政・民政関係資料及び外交文書資料の講読・研究。（毎週研究会の開催）（前年度の継続）

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】 (1) 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語・オスマントルコ語関係資料の増補目録』の作成。

(2) 『日本におけるペルシャ語文献総合目録』の作成。

(3) イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上，前年度の継続)

6月25日 新井政美 「ゲンチ・カレムレルと青年トルコ人」

10月5日 山本由美子 「フワルナについて」

11月9日 鎌田 繁 「イブン・アラビーの『完全人間』について」

12月3日 シンポジウム「イスラム世界における仁侠集団」 問題提起：佐藤次高，八尾師誠 コメント：清水宏祐 司会：後藤晃

(4) 隊商貿易史の研究。

(5) 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(6) イスラム社会の構造の研究。

(7) トルコ日本両国の近代化の比較研究。

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料の整理・研究とその分類の作成。(前年度の継続)

(2) インド古代社会に関するサンスクリット語・パーリー語・漢文資料を，マイクロフィルム，その他によって網羅的に収集し，その調査，分類を行なう。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究(チベット研究委員会)

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

①前年度に引続き，トゥカン「一切宗義」ゲルク派の章及び『語学入門』のテキスト・邦訳の整備を進めた。

②トゥカン「一切宗義」ニンマ派の章，「敦煌出土チベット年代記」，「勝鬘経」，「般若心経」，「法華経普門品」の語彙用例集の作成を進めた。

③「3世ダライラマ年代記」，「中論」の機械処理を進めた。

(2) チベット語文献の収集・整理

(3) 研究成果の刊行

①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 ― 第8分冊 ―』 B5判 1冊 (刊行済)
②『Texts of Tibetan Folktales (Ⅳ)』(『チベット民話資料集(Ⅳ)』) B5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究(近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

(1) 共同利用研究

(2) 情報交換及び参考業務(近代中国研究事務室及び同参考図書室に於て,常時遂行)

(3) 図書・資料の収集

区 分	和漢書	洋 書	複写資料
数 量	951冊	179冊	8リール

(4) 研究成果の刊行

① 『近代中国研究彙報 第6号』 A5判 1冊 (刊行済)

ⅳ 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は,5部門12研究委員会にわかれる。昭和58年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学:小山 勲,関野 雄,渡辺兼庸
古代史:越智重明,宇都木 章,河野六郎,佐藤智水,渡辺兼庸
唐代史(敦煌文献):榎 一雄,池田 温,菊地英夫,土肥義和,藤枝 晃,松本 明
宋代史:草野 靖,佐伯 富,斯波義信,周藤吉之,竺沙雅章,中嶋 敏,渡辺紘良
明代史:鈴木立子,田中正俊,鶴見尚弘,山根幸夫
近代中国:市古宙三,臼井佐知子,河鰭源治,久保田文次,倉橋正直,滋賀秀三
田中正俊,坂野正高,坂野良吉,本庄比佐子,山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本:石塚晴通,岩生成一,海野一隆,亀井 孝,酒井憲二,田中時彦,鳥海 靖
林 望

第３部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎　一雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤，渡辺　修

朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡　康

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎　一雄，梅村　坦，後藤　明，佐藤次高，清水宏祐，志茂碩敏
永田雄三，花田宇秋，本田實信，護　雅夫，八尾師　誠，
張　承志

チベット：榎　一雄，川崎信定，北村　甫，松濤誠達，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，生田　滋，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，原　實，三根谷　徹
山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

"Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko."

No.41　1983年刊　Ｂ５判　150頁

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第65巻第１・２号　昭和59年１月刊　Ａ５判　170頁

『東洋学報』第65巻第３・４号　昭和59年３月刊　Ａ５判　267頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

東亜考古学研究委員会

『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録　日本之部・中国之部（Ｉ）』　昭和59年３月刊　Ｂ５判
729頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第６号　昭和59年３月刊　Ａ５判　130頁

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第８分冊　昭和59年３月刊　Ｂ５判　95頁

『Text of Tibetan Folktales (Ⅳ)』(『チベット民話資料集　第4集』)　昭和59年3月刊　B5判　261頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録 ― 和書・中国書・朝鮮書 ― 』第31号　(1982年4月～1983年3月)　昭和58年12月刊　B5判　111頁

『財団法人東洋文庫書報』第15号　昭和59年3月刊　A5判　73頁

『財団法人東洋文庫年報』昭和57年度版　昭和58年12月刊　A5判　74頁

3. 講 演 会

東洋学講座(東洋文庫新築落成記念講演会)

第343回	昭和58年10月18日(火)		
	「東西交渉史と幻人幻術」	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄
第344回	昭和58年10月25日(火)		
	「梅咲きぬ　どれがむめやら　うめじややら」	東洋文庫研究員 元成城大学教授	亀井　孝
第345回	昭和58年11月1日(火)		
	「敦煌文書と莫高窟千仏洞」	東洋文庫研究員 国学院大学助教授	土肥義和
第346回	昭和58年11月8日(火)		
	「明清時代の魚鱗冊」	東洋文庫研究員 横浜国立大学教授	鶴見尚弘
第347回	昭和58年11月15日(火)		
	「明清時代の問屋制前貸生産について」	東洋文庫研究員 信州大学教授	田中正俊
第348回	昭和58年11月22日(火)		
	「太平天国研究における問題点」	東洋文庫研究員 愛知大学教授	河鰭源治

4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)

⑴昭和59年2月25日(土)		
「北魏時代の仏教信徒団体“邑義”について」	日本学術振興会流動研究員 岡山大学助教授	佐藤智水
「湖南省における国民革命と農民運動 ― 湖南農民運動再論 ―」	文部省内地研究員 埼玉大学助教授	坂野良吉
⑵昭和59年3月24日(土)		
「孫文の民生主義について」	私学研修福祉会国内研修員 日本女子大学教授	久保田文次

「「満州」・シベリアにおける日本人売春婦」	愛知県学外研究員・愛知県立女子短期大学専任講師	倉橋正直

5. 研究者養成

中国研究	渡辺　修	「清代政治史研究 — 特に満・漢交渉の推移を中心に —」
中国研究	臼井佐知子	「清代における地方財政と権力関係及び市場構造問題」
西アジア研究	八尾師　誠	「20世紀初頭のイランにおける立憲革命」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

i　国内研究者の受入

日本学術振興会流動研究員	岡山大学助教授	佐藤智水	「中国六朝時代郷村社会構造の研究」 （昭和58年9月1日～同59年2月29日）
〃	北海道大学助教授	石塚晴通	「訓点資料と抄物との聯関」 （昭和58年8月1日～同59年1月31日）
私学国内研修員	日本女子大学教授	久保田文次	「中国近代と辛亥革命」 （昭和58年度1ヶ年）
文部省内地研究員	埼玉大学助教授	坂野良吉	「1920年代中国における政治変革の社会経済的基礎」 （昭和58年9月1日～同59年2月29日）
愛知県学外研究員	愛知県立女子短期大学講師	倉橋正直	「日本の阿片モルヒネ政策及びシベリア・中国東北における日本人売春婦」 （昭和58年10月1日～同59年3月31日）

ii　外国人研究者の受入

Tenpa Gyaltsen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」 （昭和54年度以降）
張　承志	中国社会科学院民族研究所助理研究員	「モンゴル帝国史の研究 — 中央アジア諸族の動向を中心として —」

（国際交流基金の招聘による。昭和58
年5月29日以降1ヶ年間）

iii　外国人・外国人研究者への便宜供与

Australia

駱　惠敏	Professor, Australian National Univ.
T. Rajapatirana	Senior Lecturer, Australian National Univ.
正　賡武	Prof., Australian National Univ.
D. D. Leslie	Liberal Studies, Canberra College of Advanced Education
S. T. Leong	Prof., Dept. of History, Univ. of Melbourne
A. Buzo	University of Sydney 研究生

Canada

J. Howard	Librarian, Royal Ontario Museum, Far Eastern Library

France

M. Cohen	パリ国立図書館東洋写本部部長
C. Schifferli	国立科学研究院敦煌文献研究所研究員
Jikō Kyōdō	Prof., Collége de France, Institut d'Asie, Hautes Études Japonaises
I. Duchesne	Ph. D. Candidate, Université de Paris－Sorbonne
呉　其昱	Research Worker, Centre National de la Recherche Scientifique（C. N. R. S.）

F. R. G.（West Germany）

M. Rauck	Erlangen－Nurnberg Univ. 院生
H. W. Schütte	Hochschulassistent, Seminar für Sprache und Kultur Chinas Universität Hamburg
E. Friese	（Prof.,）Ruhr－Universität Bochum

G. D. R.（East Germany）

R. Felber	Professor of Chinese History, Departmant

of Asian Studies, Humbolt Univ.

Iran

ムハンマド・レザー・パルトー	在テヘラン日本大使館文化センター日本語講師

Italy

A. Zawlaulioui	Universita Cattalica 院生
L. Gabbrielli	Istituto Italiano per il medio ed Estremo Oriente (Lecturer)

Hong Kong

李　金強	香港浸会学院歴史系副講師
全　漢昇	香港新亜研究所教授
陳　正祥	元香港中文大学教授
李　鍔	香港大学文学院院長

Korea

呉　金成	Seoul 大学校助教授
安　東禧	〃　〃　教授
孫　兌鉉	海洋大学校教授
朴　泰根	明知大学校教授
成　大慶	成均館大学校教授
南　豊鉉	檀国大学校教授
崔　起鎬	祥明女子大学校（教授）

Netherlands

S. Nicolas	Leiden State Univ. 研究生

People's Republic of China

唐　長孺	武漢大学歴史系教授
朱　雷	〃　〃　副教授
童　恩生	四川大学歴史系考古学科副教授
胡　守為	中山大学歴史系副教授
楊　志玖	南開大学歴史系中国史教授
孫　玉石	北京大学歴史系助教授
張　菊玲	中央民族院研究所（研究員）
胡　起望	民族学院民族研究所講師
索　文清	〃　〃　〃

丘　培培	中国社会科学院日本研究所（研究員）
湯　志鈞	上海社会科学院歴史研究所副所長・研究員
宿　　白	北京大学考古系主任教授
孫　耕夫	中国社会科学院副秘書長
石　　健	〃　情報研究所副所長
劉　琢玉	〃　経済研究所副研究員
周　銘徳	上海社会科学院情報研究所副研究員
張　沢厚	中国社会科学院経済研究所助理研究員
莫　作欽	〃　情報研究所助理研究員
李　　薇	〃　外事局幹部
丁　　謙	〃　〃
趙　　軍	中国華中師範学院歴史系講師
許　庚龍	遼寧省遼寧人民出版社（社員）
王　祖望	中国社会科学院情報研究所教授
戴　　逸	中国人民大学清史研究所教授・所長
鞠　徳源	中国第一歴史檔案館保管利用組副組長
韓　　昇	廈門大学研究生
李　義一	中国延辺大学教授
尹　応淳	中国黒龍江朝鮮文報社（編集長）
徐　明勲	黒龍江省哈爾賓市民族事務委員会（委員）
崔　尤甲	延辺大学語文学部教授
李　貴培	北京大学東方語文系教授
徐　基述	黒龍江省民族事務委員会（委員）
許　光一	黒龍省民族出版社（社員）
崔　応九	北京大学副教授
金　啓孮	内蒙古大学教授，遼寧省民族学研究所所長

Republic of China

張　存武	台湾中央研究院近代史研究所教授
戚　世皓	輔仁大学教授
何　漢心	淡江大学英文系副教授
劉　徳美	国立台湾師範大学歴史系講師
車　相協	〃　研究生
洪　順隆	台湾中国文化大学教授
荘　万寿	国立台湾師範大学文学院教授

厳　霊峯	輔仁大学哲学研究所教授
Singapore	
許　統義	Librarian, National Univ. of Singapore
李　金成	Librarian, The Institute of East Asian Philosophies
Sweden	
R. Greatrex	(Prof.,) Stockholms Universitet
Turkish Republic	
Bilal Aykut	Dr., Cultral Attaché, Turkish Embassy
United Kingdom	
R. M. Burrell	Research fellow, School of Oriental and African Studies. Department of History, Univ. of London
S. R. Schram	Prof。, Cotemporary China Institute, Univ. of London
Yu-ying Brown	Research fellow, Dept. of Oriental MSS and Printed Books, The British Library
Toshiko Kusamitsu	Research fellow, The Needham Research Institute, East Asian History of Science Library
U. S. A.	
L. Barkan	Research Associate, Univ. of Washington
S. C. Avuill	Assistant Professor, Kenyon College
J. Mcdermott	Lecturer, American Council of Learned Societies (N. Y.)
陳　学霖	Prof. of Chinese History, School of International Studies, Univ. of Washington
Chen Ku-ying	Prof., Dept. of Political Science, The Univ. of Chicago
E. Schwintzer	Univ. of Washington 研究生
J. Hay	Ph. D. Candidate, Yale Univ.

N. P. Sturman	Ph. D. Candidate, Dept. of History in East Asian History, Univ. of Pennsylvania
J. W. Witek	Prof., Dept. of History, Georgetown Univ.
P. Woodruff	Ph. D. Candidate, Univ. of Chicago
S. Jagchird	Prof., Brigham Young Univ.

U. S. S. R.

E. I. Kychanov	Deputy Director, Instituto of Oriental Studies, Academy of Sciences

7. 職員の研究業績

期間：昭和58年4月1日～昭和59年3月31日まで

略号：①…著書　②…編書　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介　⑥…翻訳　⑦…講演・研究発表　⑧…その他　（評論・雑記・座談会等）

池田　温

③「東亜古代仮寧制小考」（Proceedings of the Conference on Sino-Korean-Japanese Cultural Relations. Taipei，461～480頁，1983年12月），「初唐西州土地制度管見」（史滴5，5～24頁，1984年3月），④「第31回アジア・北アフリカ人文科学会議」（東方29，2～5頁，1983年8月），⑤「西嶋定生著『中国古代国家と東アジア世界』」（読売新聞1983年10月3日），「日野開三郎著『唐代藩鎮の支配体制』」（社会経済史学49－4，92～95頁，1983年12月），「中村裕一「唐代の制書式に就いて」」（法制史研究33，262～264頁，1984年3月），⑦「Chinese Documents from Douldour-aqour in the Pelliot Collection」（CISHAAN XXXI，Seminar A4，1983年9月5日，要旨：Proceedings vol Ⅱ，994～995頁，1984年3月），「往時はよみがえる，敦煌文書」（朝日新聞ホール，1983年10月15日，要旨：第14回朝日歴史教室『西域の美と古都』12～16頁），「古代中国と日本の戸籍」（国立教育会館，1983年12月17日），⑧「魏晋南北朝時代」（『中国史研究入門』上巻，209～302頁，山川出版社，1983年9月），「文献センターの過渡期」（センター通信24，1～2頁，1983年10月）。

石塚　晴通

①『図書寮本日本書紀　研究篇』（汲古書院，1984年2月，586頁），③「孔雀経単字解題」（『古辞書音義集成17　孔雀経単字』，101～125頁，汲古書院，1983年6月），「岩崎本古文尚書・毛詩の訓点」（東洋文庫書報15，22～44頁，東洋文庫，1984年3月），⑧「日本書紀古訓について（其の一，其の二）」（『天理善本叢書和書之部54　兼　右本日本書紀㈠㈡』月報55・56，八木書店，1984年5月・7月，2頁・3頁）。

岩生　成一

⑧「西国藩の貿易と在留中国人」（日本歴史421，吉川弘文館，1983年6月，52・53頁），「『異国叢書』の頃」（呉秀三先生没後五十年記念会誌，1983年12月15日，129～131頁）。

臼井　佐知子

②「『東洋文化研究所所蔵中国土地文書目録・解説（上）』≪東洋学文献センター叢刊第

40輯≫」(浜下武志・久保亨・上田信・岸本美緒・寺田浩明・臼井佐知子共編，東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター刊行委員会，1983年10月，163頁)，③「太平天国末期における李鴻章の軍事費対策」(東洋学報65－3・4，37～69頁，東洋文庫，1984年3月)，⑤「何烈著『清咸同時期的財政』」(近代中国13，20～27頁，巌南堂書店，1983年6月)，「何齢修・劉重日・郭松義・胡一雅・鍾遵先・張兆麟『封建貴族大地主的典型 ― 孔府研究』(近代中国14，9～19頁，巌南堂書店，1983年12月)，⑥「人民教育出版社歴史編輯室編『中国 ― その人々の歴史Ⅱ』」(小島晋治・白川知多・原宗子・臼井佐知子共訳，帝国書院，1983年4月，308頁)，⑦「同治年間，江蘇省における≪減賦≫政策の地方財政的意義」(史学会第81回大会，1983年11月13日，要旨：史学雑誌92－12，100頁)，⑧「北京と上海」(アジア経済旬報1270，16～19頁，中国研究所，1983年9月)。

梅村　坦

③「大谷探検隊将来ウイグル銘文木片」(『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，133～159頁，山川出版社，1983年6月)，⑤「羽田明著『中央アジア史研究』」(史学雑誌92－12，73～82頁，1983年12月)，⑦「遊牧民とシルクロード」(横浜朝日カルチャーセンター，1983年5月12日)，「A Wooden Fragment with Uighur Inscription Preserved in the Tokyo National Museum」(第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議，第6部会：アルタイ諸民族の歴史・文化・言語，1983年9月2日，要旨：Proceedings of the Thirty-First International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa, Tokyo-Kyoto, 31st August-7th September, 1983, pp. 336～337)，「元代ウイグル人の時間と空間」(昭和58年度内陸アジア史学会大会，1983年10月29日)。

海野　一隆

③「漢民族の日本国土観」(季刊邪馬台国17，143～153頁，梓書院，1983年9月)，「韓国地図学と特色」(韓国科学史学会誌5－1，101～105頁，韓国科学史学会，1983年12月)，“The Geographical Thought of the Chinese People with Special Reference to Ideas of Terrestrial Features”(Memoirs of the Research Dept. of the Toyo Bunko 41, pp. 83～97，東洋文庫，1983年)，「江戸時代の本初子午線」(月刊古地図研究14－11，2～4頁，日本地図資料協会，1984年1月)，「楊子江と洋子江」(東方学67，91～103頁，東方学会，1984年1月)，“The Mediaeval Japanese View of Their Country”(『Languages, Paradigms and Schools in Geography』edited by K. TaKeuchi, pp. 38～43, Laboratory of Social Geography, Hitotsubashi University, 1984

年），「東洋文庫所蔵マルチーニ『新シナ図帖』四種」（東洋文庫書報15，1～21頁，東洋文庫，1984年3月），④「在鎮江宋代石刻『禹迹図』観覧記，附宋代石刻『皇朝九域守令図』の現存」〔海外東方学界消息65〕（東方学66，119～127頁，東方学会，1983年7月），⑦「朝鮮地図学の特色」（第2回日韓科学史セミナー，於京都，1983年5月24日），"Early European Cartography of Korea"（Xth International Conference on the History of Cartography, Dublin, 1983年9月1日），⑧"Note on an Early Chinese Mausoleum Plan"（Imago Mundi 34, p. 135, The International Society for the History of Cartography, 1982年），"Nobuo Muroga（1907－1982），obituary"（Imago Mundi 35, pp. 96～97, 1983年）。

榎　一雄

①『ヨーロッパとアジア』（13×19.5㎝.，(1)＋324 pp.，plates 4，東京：大東出版社，1983年7月15日），『シルクロードの歴史から（再版）』（13×19.5㎝.，(4)＋230 pp.，東京：研文出版，1983年12月15日），③「『魏志』倭人伝とその周辺 ― テキストを検討する ― (2)～(5)」（季刊邪馬台国17，pp. 90～108：18，pp. 15～34：19，pp. 54～67，1983年8月～1984年3月），「徐松の西域調査(3)～(4)」（近代中国13，pp. 167～189：14，pp. 147～166，1983年6月～'83年12月），「黎軒・條支の幻人(2)～(4)」（季刊東西交渉Ⅱ．2，pp. 14～25：Ⅱ．3，pp. 90～108：Ⅱ．4，pp. 14～29，1983年7月～12月），「則天武后」（アジア時報1983年9月号，pp. 2～4），「≪漢書・西域伝≫的研究 ― 以呼尓斯威和岑仲勉両人最近成果為中心 ―（節訳），(日)榎一雄著，袁林訳」（西北地理1983年第3期，pp. 134～140），⑤「シュールハムマー師「フランシス＝ザビエル伝（英訳の完結）」（季刊東西交渉Ⅱ．2，pp. 46～47，1983年7月），⑥「南蛮漂流譚(15)～(16終結)」（山紫水明116，pp. 28～3：117，pp. 34～37，1983年5月，7月），「中央アジアの過去と現在と未来」（FM放送，現代文明論の一部として，6回放送，1983年7月30日吹込み），⑦「中央アジアのキャラバン貿易」（NHKシルクロード講演会，沖縄：1983年10月7日，津：1983年11月4日，名古屋：1983年11月5日），「東西交渉史と幻人幻術」（東洋文庫秋期東洋学講座，1983年10月18日，要旨：東洋文庫書報15，64・65頁），「魏志倭人伝の成立」（横浜朝日カルチャーセンター，1983年10月21日），「魏志倭人伝」（東急カルチュアーセンター（BE），1983年11月19日(土)から毎土曜日5回・1983年12月17日(土)まで），⑧「小竹武夫氏のこと」（東洋文庫書報14，pp. 1～18），「大橋先生と私」（滴泉8，pp. 133～134，1983年3月18日），「阿部隆一博士と書誌学」（汲古3，pp. 4～5，1983年5月），「最近の世相に想う」（言論春秋260，1983年7月25日），「他山の石たらんとせば」（言論春秋294，1984年3月19日），「敦煌書法叢刊（二玄社）を推す」（同叢刊広告，1983年5月），

「徳富蘇峰記念館」（日本近代文学館76，pp. 6，1983年11月15日），「洪吉童伝，日本訳監修並びに解説」（季刊東西交渉Ⅱ. 3－Ⅲ. 1，1983年8月～1984年3月），「再び槗亭に会す」（一高同窓会報115，1983年5月），「東方学66・67編輯後記，（　1983年7月・1984年1月）。

越智　重明

③「七科謫をめぐって」（九州大学東洋史論集11，1～26頁，九州大学文学部東洋史研究会，1983年4月），「白衣領職をめぐって」（『小尾博士古稀記念中国学論集』，407～422頁，汲古書院，1983年10月），「春秋戦国時代の隷属者をめぐって」（九州大学東洋史論集12，1～28頁，九州大学文学部東洋史研究会，1983年11月），⑤「川勝義雄著『六朝貴族制社会の研究』」（史学雑誌93－2，81～88頁，史学会，1984年2月），⑧「海外調査箚記〔海外東方学界消息66〕」（東方学67，111～123頁，東方学会，1984年1月）。

岡田　英弘

①『国際誤解と日本人』（共著，三修社，日本文化会議編，1983年6月15日，202頁），『日本人の条件 ― 適応力』（共著，三修社，日本文化会議編，1983年8月15日，249頁），『成熟社会への条件 ― 自己変革の時代』（共著，三修社，日本文化会議編，1983年12月15日，232頁），『漢民族と中国社会』（共著，山川出版社，民族の世界史5，1983年12月24日，471＋34頁），②『日本と国際環境』（三修社，1982年11月，227頁），③「東南アジアの心と言葉」（クロスロード18－197，6～11頁，国際協力事業団青年海外協力隊，1982年4月），「“教科書検定”は中国の内政問題だ」（中央公論97－10，82～96頁，中央公論社，1982年10月），「邪馬台国問題を見直す」（高校通信東書88，2～5頁，東京書籍，1983年3月1日），「モンゴル親征時の聖祖の満文書簡」（『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，303～321頁，山川出版社，1983年6月30日），「サルフの戦い ― 後金国ハン・ヌルハチと明国）（『日本古代文化の探究　戦』，225～246頁，社会思想社，1984年1月30日），「中国が日本に朝貢する時代」（諸君！16－3，200～212頁，文芸春秋，1984年3月1日），“Mongol chronicles and Chinggisid genealogies”（アジア・アフリカ言語文化研究27，147～154頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1984年3月31日），“The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči*”（アジア・アフリカ言語文化研究27，155～162頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1984年3月31日），④「第19回野尻湖クリルタイ」（通信46，35～38頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1982年11月25日），「第十九回野尻湖クリルタイ」（東洋学報64－1・2，199～204頁，東洋文庫，1983年1月），「第20回野尻湖クリルタイ」（通信49，24～28頁，東京外国語

大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1983年11月25日），「第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議，第6部会」（通信49，29～35頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1983年11月25日），「第二十回野尻湖クリルタイ」（東洋学報 65－1・2，157～164頁，東洋文庫，1984年1月25日），⑤「西田龍雄著『アジアの未解読文字』」（朝日ジャーナル24－21，65～67頁，朝日新聞社，1982年5月21日），「陳正祥編著『中国歴史・文化地理図冊』」（季刊東西交渉1－2，43頁，井草出版，1982年6月），「岡田臣弘著『実像の中国』」（週刊ポスト657，88～89頁，小学館，1982年6月25日），「村松暎著『中国故事つれづれ草』」（世界日報2868，9頁，世界日報社，1983年1月10日），「ホフハインズ，カルダー共著『脱アメリカの時代』」（世界日報2882，9頁，世界日報社，1982年1月24日），「鈴木中世編『千年王国的民衆運動の研究 ― 中国・東南アジアにおける ― 』」（史学雑誌92－2，85～91頁，史学会，1983年2月20日），「越石建夫著『北京の800日』」（世界日報2909，9頁，世界日報社，1983 2月20日），「中国研究センター編『「人民日報」読者来信』」（世界日報2916，9頁，世界日報社，1983年2月28日），「尹学準著『オンドル夜話』」（世界日報2930，9頁，世界日報社，1983年3月14日），「ラッセル・ブラッドン著『日本人への警鐘』」（世界日報2943，9頁，世界日報社，1983年3月28日），「伊藤桂一著『静かなノモハン』」（世界日報2971，9頁，世界日報社，1983年4月25日），「佐瀬昌盛著『チェコ悔恨史』」（世界日報2984，9頁，世界日報社，1983年5月9日），「周令飛著『北京よ，さらば』」（世界日報2998，9頁，世界日報社，1983年5月23日），「草野心平著『茫々半世紀』」（世界日報3012，9頁，世界日報社，1983年6月6日），「B.オフチンニコフ著『桜の枝』」（世界日報3025，9頁，世界日報社，1983年6月20日），「L.I.アルバウム，B.ブレンチェス共著『黄金の番人』」（世界日報3032，9頁，世界日報社，1983年6月27日），「古屋奎二著『故宮博物院物語』」（世界日報3039，9頁，世界日報社，1983年7月4日），「田代和生著『書き替えられた国書』」（世界日報3046，8頁，世界日報社，1983年7月11日），「ヒュー・トレヴァー＝ローパー著『北京の隠者』」（世界日報3060，8頁，世界日報社，1983年7月25日），「ムハンマド・アサド著『メッカへの道』」（世界日報3080，13頁，世界日報社，1983年8月15日），「金容雲著『韓国人と日本人』」（世界日報3094，8頁，世界日報社，1983年8月29日），「岡崎久彦著『戦略的思考とは何か』」（世界日報3121，9頁，世界日報社，1983年9月26日），「陳舜臣著『録外録』」（サンケイ新聞14946，7頁，産業経済新聞東京本社，1984年3月19日），⑦「紙上講座　中国人の特質を探る」（松下政経塾報11，松下政経塾，1982年11月），「中国人のコミュニケーション」（日本文化会議コミュニケーション研究会，1983年4月18日），“The Ordos Jinong in *Erdeni-yin Tobči*”（第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議，1983年9月3日），“Mongol Chronicles and Chinggisid Genealogies”（亜洲族譜研討会，1983年9月12日），⑧「田中角栄をどう思

いますか」（諸君！14－4，49～50頁，文芸春秋，1982年4月，アンケート），「新聞批評　ブレジネフ提案の評価」（時事解説9032，9～10頁，時事通信社，1982年4月6日），「春秋　フォークランドの海戦」（時事解説9036，1頁，時事通信社，1982年 4月20日），「新聞批評　ベトナム党大会の評価」（時事解説9036，8～9頁，時事通信社，1982年4月20日），「新聞批評　春闘の妥結とその評価」（時事解説9039・9040，8～9頁，時事通信社，1982年4月30日），（歴史は繰り返すか　在日中国人留学生の革新運動」（月曜評論589，2頁，月曜評論社，1982年5月10日），「新聞批評　戦争になすすべを知らない新聞」（時事解説9043，9～10頁，時事通信社，1982年5月14日），「春秋　『東京行動』の偽善」（時事解説9047，1頁，時事通信社，1982年5月28日），「新聞批評　伊藤発言をめぐる空さわぎ」（時事解説9049，7～8頁，時事通信社，1982年6月4日），「趙中国首相来日の意義」（世界日報2659，8～9頁，世界日報社，1982年6月10日），「新聞批評　趙紫陽の日本訪問」（時事解説9053，10～11頁，時事通信社，1982年6月18日），「月曜寸言　歴史のシナリオ」（月曜評論596，1頁，月曜評論社，1982年6月28日），「新聞批評　戦争の六月と日本の新聞」（時事解説9058，7～8頁，時事通信社，1982年7月6日），「春秋　アラブの大義」（時事解説9059，1頁，時事通信社，1982年7月9日），「新聞批評　ＩＢＭ産業スパイ事件」（時事解説9061，7～8頁，時事通信社，1982年7月16日），「月曜寸言　千年王国」（月曜評論600，1頁，月曜評論社，1982年7月26日），「新聞批評　生産者米価の引き上げ」（時事解説9065，10～11頁，時事通信社，1982年7月30日），「春秋　『教科書検定』問題」（時事解説9067，1頁，時事通信社，1982年8月6日），「月曜寸言　指桑罵槐」（月曜評論 602，1頁，月曜評論社，1982年8月9日），「新聞批評　教科書検定問題の報道」（時事解説9070，8～9頁，時事通信社，1982年8月17日），「月曜寸言　歴史と事実」（月曜評論604，1頁，月曜評論社，1982年8月23日），「新聞批評　教科書問題のあっけない結末」（時事解説9074，8～9頁，時事通信社，1982年8月31日），「月曜寸言　教科書問題の結末」（月曜評論606，1頁，月曜評論社，1982年9月6日），「中国党大会と教科書騒動」（世界日報2751，9頁，世界日報社，1982年9月12日），「春秋　教科書問題その後」（時事解説9098，1頁，時事通信社，1982年9月14日），「丹沢一延のインタビュールーム」（商工ジャーナル8－10，28～31頁，日本商工経済研究所，1982年9月，対談），「月曜寸言　教科書問題その後」（月曜評論608，1頁，月曜評論社，1982年9月20日），「新聞批評　中共十二全大会の前夜まで，（時事解説9080，9～10頁，時事通信社，1982年9月21日），「新聞批評　教科書問題の大誤報」（時事解説9083，8～9頁，時事通信社，1982年10月1日），「魏志倭人伝はこう読むべきだ」（歴史と人物138，72～89頁，中央公論社，1982年10月，対談），「軍が鄧批判に利用　奇怪な中国の教科書攻撃」（思想新聞528，3頁，国際勝共連合，1982年10月11日），「新聞批評　鈴木訪中の評価」（時事解説9088，10～11頁，時事通信社，1982年10月19日），「春

秋　『牛肉戦争』の教訓」（時事解説9089，1頁，時事通信社，1982年10月22日），「『倭人伝』をどう読むか」（『倭人伝を読む』，3〜63頁，中央公論社，1982年10月，対談），「新聞批評　鈴木退陣の衝撃とその評価」（時事解説9092，7〜8頁，時事通信社，1982年11月2日），「新聞批評　スペイン左翼新政権の成立」（時事解説9096，7〜8頁，時事通信社，1982年11月16日），「プロフィル　ゴンボジャブ・ハンギン博士」（通信46，20頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1982年11月25日），「春秋　教科書審議会答申の矛盾」（時事解説9098，1頁，時事通信社，1982年11月26日），「新聞批評　ブレジネフ時代の評価」（時事解説9099，7〜8頁，時事通信社，1982年11月30日），「歴史教科書答申の歴史知らず　歴史は国民文化の所産である」（月曜評論619，2頁，月曜評論社，1982年12月6日），「新聞批評　『悪魔の飽食』スキャンダル」（時事解説9105，6〜7頁，時事通信社，1982年12月21日），「随筆　愛国」（季刊知識29，文化総合出版，1983年1月1日），「春秋　百年前の憲法」（時事解説9108，1頁，時事通信社，1983年1月11日），「新聞批評　元日の紙面づくりの趣向」（時事解説9109，10〜11頁，時事通信社，1983年1月14日），「新聞批評　シュルツ国務長官の極東訪問」（時事解説9117，6〜7頁，時事通信社，1983年2月15日），「解説　米ソの力の均衡図る — シュルツ訪中『共同行動』の範囲再確認」（世界日報2906，8頁，世界日報社，1983年2月18日），「春秋　シュルツ訪中の意義」（時事解説9118，1頁，時事通信社，1983年2月18日），「新聞批評　防衛力増強はいまや多数派」（時事解説9121，8〜9頁，時事通信社，1983年3月1日），"Potential for High Growth Exists in Asia"（*The Daily Yomiuri* 1173，5頁，読売新聞社，1983年3月8日，アンケート），「新聞批評　東京都知事選挙の共闘難航」（時事解説9125，9〜10頁，時事通信社，1983年3月15日），「春秋　現代韓国のヤンバン」（時事解説9128，1頁，時事通信社，1983年3月25日），「新聞批評　空母エンタープライズの寄港」（時事　説9130，8〜9頁，時事通信社，1983年4月1日），「日米を操る隣国の外交政策」（文化会議167，26〜34頁，日本文化会議，1983年5月1日），「新聞を読んで　福岡県知事選の奥田派違反」（時事解説9138，19〜20頁，時事通信社，1983年5月6日），「中曽根ASEAN歴訪と日中関係」（月曜評論641，1頁，月曜評論社，1983年5月9日），「解説　中国，最大限に事件を利用 — 韓国接近でソ連に対抗」（世界日報2988，8頁，世界日報社，1983年5月13日），「新聞批評　日本の防衛，アジアはどうみるか」（時事解説9141，14〜15頁，時事通信社，1983年5月17日），「新聞批評　中国民航機のハイジャック事件」（時事解説9145，18〜19頁，時事通信社，1983年5月31日），「新聞批評　サミット声明の必然性を説く」（時事解説9150，18〜19頁，時事通信社，1983年6月17日），「春秋　ソ連人の日本観」（時事解説9154，1頁，時事通信社，1983年7月1日），「新聞批評　社会主義政党は生き残れるか」（時事解説9160，18〜19頁，時事通信社，1983年7月22日），「モンゴル人と日本人」（季刊東西交渉6，10頁，井草出版，1983年7

月27日），「中ソ特権階級の栄耀栄華」（諸君！15－8，214～232頁，文芸春秋，1983年8月1日，対談），「春秋　うそつきの天才と歴史」（時事解説9166，1頁，時事通信社，1983年8月12日），「社会主義国家の特権階級」（日経連タイムス1751，1頁，日本経営者団体連盟，1983年9月1日），「プロフィル　スチン・ジャクチト教授」（通信49，13頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1983年11月25日），（Gom-bojab Hangin；中国の文化大革命と内モンゴルの文学」（通信49，51～53頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1983年11月25日），「胡耀邦の朝貢外交」（月曜評論673，2頁，月曜評論社，1983年12月19日），「私達が新聞を信じない理由 ―『軍事大国化』という嘘」（諸君！16－1，36～37頁，文芸春秋，1984年1月1日）。

河鰭　源治

④「近年の中国における太平天国史の研究」（近代中国研究彙報6，1～29頁，東洋文庫，1984年3月），⑤「銭遠鎔著＜李秀成『書供』原稿考弁＞」（近代中国13，11～20頁，巌南堂書店，1983年12月），「董蔡時著『太平天国在蘇州』（近代中国14，28～41頁，巌南堂書店，1983年12月），⑦「太平天国研究における問題点」（東洋文庫秋期東洋学講座，1983年11月22日，要旨：東洋文庫書報15，68～70頁）。

倉橋　正直

③「営口東盛和事件の裁判」（歴史学研究517，42～58頁，歴史学研究会，1983年6月），「日本の阿片・モルヒネ政策（その1）」（近きに在りて4号，2～10頁，野沢豊，1983年9月），「社会主義論の教育実践」（歴史評論404，41～59頁，歴史科学協議会，1983年12月），⑦「私の考える社会主義」（名古屋歴史科学研究会6月例会，1983年6月25日），「光緒新政的研究」（中国，遼寧大学歴史系の教室にて，1983年7月25日），「社会主義論の教育実践」（歴史科学協議会第17回大会，1983年8月18日），「『満州』・シベリアにおける日本人売春婦」（東洋文庫談話会，1984年3月24日），⑧「芝田文雄氏の逝去をいたむ」（歴史学研究月報280，4～7頁，歴史学研究会，1983年4月），「隠された戦前の『国家的犯罪』― 日本のアヘン・モルヒネ政策」（朝日新聞〔名古屋版〕，1983年4月27日夕刊），「中国へわたった越中富山の薬」（名古屋商工会議所月報433，26～27頁，名古屋商工会議所，1983年9月），「浦汐節 ― 北方系『からゆきさん』哀歌」（同上434，22～23頁，1983年10月），「チェーホフの相手をした日本女」（同上435，24～25頁，1983年12月），「島原女・天草女」（同上436，30～33頁，1984年1月），「浦塩密航婦の横奪」（同上437，22～23頁，1984年2月），「熱河省の女ミイラ」（同上438，30～31頁，1984年3月），「徐鼎新訳「関于清末商部振興農務，工芸，路務等若干問題」（上海社会科学院経済研究所刊『経済学術資料』1983年4期，49～56頁，1983年4月，華訳：「清末，商部の実業振興について」歴史学研究432，

1976年5月の後半部分の翻訳），「徐鼎新訳「営口的公議会」」（前掲『経済学術資料』1983年12期，44～51頁，1983年12月，華訳：「営口の公議会」歴史学研究 481，1980年6月の翻訳）。

後藤　明

③「ヒジュラ前後のメディナの政情」（オリエント，23－2，59～77頁，1981年3月），「自由都市メッカ」（護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，503～518頁，1983年6月），"al - Madina at the Time of Muhammad Coming"（山形大学史学論集4，1～10頁，1984年2月），⑤「佐藤圭四郎著『イスラーム商業史の研究』」（集刊東洋学47，86～90頁，1982年5月），「M. J.キスター著『ジャーヒリーヤ時代および初期イスラム時代の研究』」（イスラム世界21，72～80頁，1983年8月），「リチャード・ベル著・熊田亮訳『イスラムの起源』」（東西交渉6，44～45頁，1983年7月），「前嶋信次著『東西文化交流の諸相』全四巻」（史学雑誌92－8，117～119頁，1983年8月），⑦"al - Madina at the Time of Muhammad Coming"（Session 5, the 31st International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa，1983年9月1日），「正義と安全 — ムハムマドとイブン・タイミーアの場合 —」（中近東文化センター・シンポジウム・イスラームの宗教意識とその周辺，1983年11月19日），⑧「嶋田襄平編『イスラムの世界』」（NHK市民大学叢書15，I章16～40頁，1983年12月），「『部族』小考」（『社会科学の方法』7～9頁，1982年4月），「ホメイニ政治を支える神の意志」（朝日ジャーナル，1982年9月24日），「マホメットとその時代」（オリエンタリスト信州，1983年3月）。

後藤　均平

⑤「片倉穣『罰銭小考』」（法制史研究32，322～323頁，法制史学会，1983年3月），⑤「奥崎裕司『漢代の反乱における"民衆法"』」（史潮新14，21～24頁，史学研究会，1983年12月）。

佐藤　次高

③"The Iqṭā‘ System of Iraq under the Buwayhids"（Orient, vol.18, 1983, pp. 83～105），「奴隷のスルタン」，「イスラムの都市と農村」，「イスラム商人の活躍」（嶋田襄平編『イスラムの世界』，日本放送出版協会，1983年11月，89～113頁），「マクリーズィーのエジプト農民論について — 森本公誠氏に答える —」（護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，山川出版社，1983年6月，555～574頁），「バグダードの任狭・無頼集団」（社会史研究3，1983年11月，74～128頁），④「イスラム社会と奴隷軍人 — 最近の研究に寄せて —」）創文233，1983年6月，1～4頁），

⑦"Iqṭāʻ and the Iraqi Society under the Buwayhids"(XXI International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa, Section 5, Tokyo, 1983・9・2, Proceedings, vol. 1, pp. 298～299),「アイユーブ朝のイクター制について」(東洋史研究会大会, 1983年11月3日),「イスラム世界における砂糖の生産と流通」(アジア・アフリカにおけるイスラム化と近代化に関する調査研究, プロジェクト研究会, 1983年12月17日)。

酒井　憲二

②『寛永諸家系図伝　第六』(校訂協力, 続群書類従完成会, 1983年6月, 258頁), ③「『キリシタン教義の研究』本文の部訂補(一)」(国語学135, 58～67頁, 1983年12月),「同(二)」(国語学136, 76～86頁, 1984年3月), ⑧『国語科教授法実践必携』(解釈学会編, 1983年8月, 教育出版センター刊に「図書館利用」の項を執筆),「『日本古典文学大辞典』に「異体字弁」「一歩」「下学集」など国語学関係書14項目を執筆」(第1巻, 1983年10月, 岩波書店刊)。

志茂　碩敏

②『日本国ペルシア語文献所在総目録』(八尾師誠, 井谷鋼造, 岩見隆, 関喜房共編, 東洋文庫・紀伊国屋書店, 1983年12月, 8＋781＋4頁), ③「イル汗国におけるフラグ家姻戚の有力諸部族」(『内陸アジア・西アジアの社会と文化』, 山川出版社, 1983年6月, 667～695頁),「イル汗国におけるモンゴル人」(東洋史研究42－2, 1984年3月, 130～166頁), ⑦「The Compilation and Publishing of the Union Catalogue of Persian Language Materials in Japan」(1983年9月, シシアーン大会, 発表内容:『Proceedings of the Thirty-First International Congress of Human Science in Asia and North Africa』II, 1097～1098頁),「集史について」(1983年10月, AA研プロジェクト・内陸アジア文字資料の研究, 第2回研究会)。

滋賀　秀三

「法制史の立場から見た現代中国の刑事立法 ― 断想的所見」(『法学協会百周年記念論集第1巻』, 283～322頁, 有斐閣, 1983年10月), ⑤「小口彦太著「清朝時代の裁判における成案の役割について」」(法制史研究33, 法制史学会, 1984年3月)。

清水　宏祐

③「ペルシア語写本『宰相たちの歴史』について」(『内陸アジア・西アジアの社会と文化』623～646頁, 山川出版社, 1983年6月),「農書に見るイランの農業思想 ― 文献史料による中東農業史(1) ―」(砂丘研究30－2, 289～295頁, 1983年12月), ⑦

「農書を通して見た生活文化の一側面」（「イスラム化」にかんする共同研究会，於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1983年6月18日），「イスラム世界と生活文化」（東京大学五月祭・アジア・アフリカに学ぶ会講演，1983年5月28日），「イランの自然条件と遊牧」（東洋文庫遊牧研究会，1983年11月12日），「農書における作物と収穫量について」（於鳥取大学農学部砂丘利用研究施設，1983年12月21日），⑧「トルコ人」（中近東文化センター研究報告4『アラブと非アラブ』，38～55頁，1983年11月）。

末松　保和

「歴史家としての西厓・柳成竜」（朝鮮学会第34回大会の公開講演，1983年10月1日，要旨：朝鮮学報110，1～19頁，1984年1月）。

鈴木　立子

②「遼・金・元研究史，史籍解題」（山根幸夫等共編，『中国史研究入門』上，500～506，508～531，558～570頁，山川出版社，1983年9月），③「The Chiang - hu in the Yüan」（Acta Asiatica 45, pp. 69～95, Toho Gakhai, 1983），④「中華人民共和国における少数民族研究文献目録㈡」（東洋文庫書報15，45～63頁，1984年3月），⑤「王徳毅・李栄村・潘柏澄編『元人伝記資料索引』」（東洋学報65－1・2，125～128頁，東洋文庫，1984年1月），⑥「アルカード＝オアンジュのパリ日記㈠」（季刊東西交渉9，46～55頁，井草出版，1984年3月）。

田中　時彦

②「編著『広沢参議暗殺の謎』」（藤根井和夫編『正史への招待』(29)，日本放送出版協会，1984年3月，161～162，167～168頁），⑤「書評：野村乙二朗著『近代日本政治外交史の研究 ― 日露戦後から第一次東方会議まで』」（日本歴史423，107～108頁，吉川弘文館，1983年8月），⑦「講演：「近・現代日本政治史」」（秦野市地域大学講座：Ⓘ西力東漸と尊王攘夷・1983年5月13日，Ⓘ「富国強兵」と自由民権・5月27日，Ⓘ明治憲法と議会運営・6月10日，Ⓘ条約改正と韓国問題・6月24日，Ⓥ大正デモクラシー ― 原敬論 ― ・7月8日，Ⓥ軍ファシズム ―「挙国一致」内閣論・7月22日，Ⓥ終戦論・9月30日，Ⓥ佐藤栄作論・10月14日），⑧「評論：「鉄道に賭けた技術者魂 ― 井上勝」」（歴史と人物158，94～102頁，中央公論社，1984年3月），⑧「ラジオ・セミナー「アーネスト・サトウ著 ― 一外交官の見た明治維新」」（N・H・K第2放送，Ⅰ：1984年1月6日，Ⅱ：1月13日，Ⅲ：1月20日，Ⅳ：1月27日）。

竺沙　雅章

②『欧米収蔵中国法書名蹟集・明清篇，第1巻・第2巻』（中田勇次郎・傅申編，分担執筆，中央公論社，(1)：1983年8月，160～161，183～184頁，(2)：12月，135，156，158～162頁，③「宋元時代の慈恩宗」（南都仏教50，45～60頁，1983年6月），「五代・宋」（『アジア歴史研究入門Ⅰ，中国1』，227～268頁，同朋舎，1983年11月），「宋元時代の杭州寺院と慈恩宗」（『中国近世の都市と文化』，65～94頁，京都大学人文科学研究所，1984年3月），⑧「蘇東坡の宜興買田」（中国書論大系月報9，5～7頁，二玄社，1983年10月）。

鳥海　靖

②『国史大辞典（第4巻）』（坂本太郎氏等と共編，吉川弘文館，1984年2月，1098頁），③「星亨 ― 剛腹でならした政党政治家」（『日本のリーダー（第2巻）・政党政治の雄』，119～176頁，TBSブリタニカ，1983年4月），④"Oriental Studies in Japan；Retrospect and Prospect 1963－1972（Part Ⅰ－7），History of Modern Japan"（The Culture for East Asian Cultural Studies，Tokyo，August，1983，49p），⑤「佐藤誠朗著『ワッパ騒動』」（日本歴史419，90～91頁，日本歴史学会，1983年4月），「有泉亨著『星亨』― 政治の現実的有効性を問う」（文化会議170，46～48頁，東京，1983年8月，㈶日本文化会議），⑦「世界史における近代日本」（欧州巡回日本研究セミナー，1983年5月），「パリ平和会議と日本」（富山県民大学移動巡回講座，1983年8月），⑧「新聞の主戦論がもった影響力」（中央公論歴史と人物148，80～87頁，中央公論社，1983年7月）。

永田　雄三

③『18世紀後半トルコの農場経営資料の分析 ― 中間報告 ―』（『イスラム化と「近代化」に関する調査 ― 昭和57年度共同研究プロジェクト報告 ―』7，75～133頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1984年3月），「アーヤーン層と地域社会 ― カラオスマンオウル・ヒュセイン・アガを事例として ―」（護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，735～760頁，山川出版社，1983年6月），⑦「Managerial System of a Big Farm in the 18th Century Turkey」（Third International Congress on the Economic and Social History of Turkey，August 24－26，1983，Princeton University），「Town and Country in Anatolia at the Beginning of the 19th Century」（Middle East Seminar，November 15，1983，Centre for Middle Eastern Studies，SOAS，University of London）。

花田　宇秋

③「初期イスラム時代のシュルタ」（『内陸アジア・西アジアの社会と文化』，535～554頁，山川出版社，1983年6月），⑤「F．M．ドンナー著『初期イスラムの征服』」（イスラム世界21，81～86頁，日本イスラム協会，1983年8月），⑧「預言者ムハンマドの天界飛翔」（月刊シルクロード通信2～10，2頁，シルクロード文化研究所，1983年11月），⑧「浦島太郎」（季刊東西交渉2～4，12～13頁，井草出版，1983年12月）。

坂野　良吉

③「国民革命の展開とワシントン体制の変質」（『東アジア世界の再編と民衆意識 ― 1983年度歴史学研究別冊特集』，158～168頁，1983年11月），⑤「狹間直樹・片岡一忠・藤本博生著『五四運動の研究』第1函」（東洋史研究42－4，187～194頁，1984年3月）。

本庄　比佐子

④「国共合作とコミンテルン ― 最近の中国における研究から ― 」（『近きに在りて』4，40～46頁，1983年9月）。

松濤　誠達

③「古代インド祭祀における数の問題 ― 序章・1，2，及び3の考察 ― 」（宗教研究256，55～68頁，日本宗教学会，1983年6月），「古代インドにおける数のシンボリズム ― 7の考察 ― 」（仏教学16，29～46頁，仏教学研究会，1983年10月），「仏教が排除したもう一つの「輪廻説」 ― 父と息子の一致をめぐって ― 」（東洋学術研究22－1，60～70頁，東洋学術研究所，1983年5月），「仏教パンテオン，仏・菩薩の世界」（『日本人の仏教』4，「仏と菩薩」，27～99頁，東京書籍，1983年10月）。

森岡　　康

③「第二次清軍入寇後の朝鮮人捕虜の売買(I)」（朝鮮学報109，29～55頁，朝鮮学会，1983年10月），「第二次清軍入寇後の朝鮮人捕虜の売買(II)」（東洋学報65－1・2，27～62頁，東洋文庫，1984年1月）。

山崎　元一

①『印度社会と新仏教運動』（全在星・許祐盛訳，韓国京城，1983年4月，275頁），⑤「白井駿「古代ヒンドゥ社会の刑事訴訟観」・「マハーバーラタにおける罪，贖罪，刑罰」，山崎利男「4～12世紀インドにおける村落享有の確認とその消滅」（法制史研究33，269～273頁，法制史学会，1983年），⑦「Recent Trends in the Study of An-

cient Indian History in Japan」(44th Session of Indian History Congress, Burdwan University, India, 23 December, 1983)。

山根 幸夫

②『中国史研究入門(上・下)』(山川出版社, 1983年9月, 578, 556頁),『新編辛亥革命文献目録』(東京女子大学東洋史研究室, 1983年11月, 305頁), ③「大西政権と紳士層の対応」(小野和子編『明清時代の政治と社会』, 京都大学人文科学研究所, 157〜187頁, 1983年5月),「総説」(『中国史研究入門(上)』, 1〜27頁),「明代」(『中国史研究入門(下)』, 1〜90頁), "Reforms in the Service Levy System in the Fifteenth and Sixteenth Centuries"(Linda Grove & Christian Daniels ed. : *State and Society in China*, Univ. of Tokyo Press. 279〜310頁, 1984),「日本関于"辛亥革命与日本"的研究動向」(王魁喜訳, 東北師範大学学報 1983−6, 99〜105頁),「日本関于"辛亥革命与日本"的研究動態」(李班譙訳, 歴史教学 1983−12, 56〜59頁), ④「関于"辛亥革命与日本"問題的日文著述目録」(国外辛亥革命研究動態1, 141〜145頁, 1983年6月),「辛亥革命文献目録(1973〜1981)」(中華書局編輯部編『紀念辛亥革命七十周年学術討論会論文集(下)』, 2428〜42頁, 1983年6月),「韓国明清史論文要目」(明代史研究12, 25〜26頁, 1983年3月), ⑤「佐久間重男教授退休記念『中国史・陶磁史論集』の刊行」(燎原図書案内1983−6・J, 13〜14頁, 1983年7月),「谷川道雄・森正夫編『中国民衆叛乱史』」(週刊読書人1485, 1983年6月13日),「新刊紹介『二風谷』」(東京女子大学学報 36−12, 1983年12月),「陳高華・陳智超等著『中国古代史史料学』」(東洋学報65−1・2, 121〜125頁, 1984年1月),「南京大学歴史系明清史研究室編『中国資本主義萌芽問題論文集』」(東洋学報 65−3・4, 207〜211頁, 1984年3月), ⑥「金鍾博『明代東林党争とその社会背景』下」(稲田英子共訳, 明代史研究 12, 17〜25頁, 1984年3月) ⑦「清代山東の市集と紳士層」(京大人文科学研究所明清研究班例会, 1984年2月7日), ⑧「北京市社会科学研究所について」(辛亥革命研究 3, 65〜68頁, 1983年3月),「近藤秀樹氏の追憶」(中国留学生友の会会報25, 1984年1月),「明代経済史討論会の報告」(明代史研究 12, 53〜54頁, 1984年3月),「中国学の図書館・研究所, その他」(『中国史研究入門(下)』, 541〜547頁)。

渡辺 修

⑧「「目録・解説」(内容:〔立教大学東洋史〕読書室備付の参考図書/東洋史関係主要和文雑誌所在目録/最近中国で刊行された参考図書/中国刊行の歴史関係の雑誌)」(『盈虚集 — 立教大学東洋史同学会会誌 創刊号, p. 101〜117, 1984年3月)。

渡辺　紘良

③「宋代潭州湘潭県の黎氏をめぐって ― 外邑における新興階級層の聴訟 ― 」（東洋学報 65－1・2，1～25頁，東洋文庫，1984年1月）。

和田　博徳

③「邪馬台国東遷説の主唱者・和田　清」（邪馬台国16，124～133頁，梓書院，1984年6月），「中国文明の特色 ― 東洋史テキストの周辺 ― 」（三色旗428，28～30頁，慶応義塾大学通信教育部，1984年11月）。

Ⅳ　業務報告

1.　総務報告

A．財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理事会

第２３６回　開催日　昭和５８年６月２１日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，河野　六郎，田中　正俊
　　護　雅夫，高雄　靖，播磨　俊雄，
　委任状　小笠原光雄，高垣寅次郎，徳川　宗敬，松本　重治，山本　達郎

第２３７回　開催日　昭和５８年６月２１日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，河野　六郎，田中　正俊
　　護　雅夫，高雄　靖，播磨　俊雄
　委任状　小笠原光雄，高垣寅次郎，徳川　宗敬，松本　重治，山本　達郎

第２３８回　開催日　昭和５８年１２月６日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，河野　六郎，坂本　太郎
　　田中　正俊，松本　重治，護　雅夫，高雄　靖，播磨　俊雄
　委任状　小笠原光雄，高垣寅次郎，徳川　宗敬，山本　達郎

第２３９回　開催日　昭和５９年１月１７日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎，坂本　太郎
　　護　雅夫，播磨　俊雄
　委任状　有光　次郎，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治
　　山本　達郎

第２４０回　開催日　昭和５９年１月１７日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎，坂本　太郎
　　護　雅夫，播磨　俊雄
　委任状　有光　次郎，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治
　　山本　達郎

第２４１回　開催日　昭和５９年３月１３日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎，坂本　太郎
　　護　雅夫，山本　達郎
　委任状　有光　次郎，大槻　文平，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬

松本　重治，播磨　俊雄

第２４２回　開催日　昭和５９年３月１３日（火曜日）

出席者　榎　一雄，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎，坂本　太郎
護　雅夫，山本　達郎

委任状　有光　次郎，大槻　文平，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬
松本　重治，播磨　俊雄

評議員会

第１０５回　開催日　昭和５８年６月２１日（火曜日）

出席者　亀井　孝，神田　信夫，中嶋　敏

委任状　石川　忠雄，坂本　太郎，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一
中山　素平，西原　春夫，長谷川周重，日比野丈夫，平野　龍一

第１０６回　開催日　昭和５８年１２月６日（火曜日）

出席者　岡野　澄，亀井　孝，神田　信夫，関野　雄，中嶋　敏
前田　充明

委任状　石川　忠雄，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一，中山　素平
西原　春夫，長谷川周重，林　健太郎，日比野丈夫，平野　龍一

第１０７回　開催日　昭和５９年１月１７日（火曜日）

出席者　岡野　澄，亀井　孝，神田　信夫，関野　雄，中嶋　敏
林　健太郎，前田　充明

委任状　石川　忠雄，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一，中山　素平
西原　春夫，長谷川周重，日比野丈夫，平野　龍一

第１０８回　開催日　昭和５９年３月１３日（火曜日）

出席者　岡野　澄，亀井　孝，関野　雄，中嶋　敏

委任状　石川　忠雄，神田　信夫，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一
中山　素平，西原　春夫，長谷川周重，林　健太郎，日比野丈夫
平野　龍一，前田　充明

B．東洋学連絡委員会の開催

前期　開催日　昭和５８年５月２４日（火曜日）

出席者　榎　一雄，市古　宙三，岩生　成一，貝塚　茂樹，佐藤　長
長尾　雅人，中嶋　敏，日比野丈夫，福井　康順，宮崎　市定
山本　達郎

議　題　1．昭和５７年度財団法人東洋文庫事業報告について

2．昭和５８年度財団法人東洋文庫事業計画について

後期　開催日　昭和５８年１１月１５日（火曜日）

出席者　榎　　一雄，市古　宙三，岩生　成一，佐藤　　長，中嶋　　敏

福井　康順，本田　實信，宮崎　市定，山本　達郎

議　題　1. 昭和５８年度財団法人東洋文庫事業中間報告について

2. 昭和５９年度財団法人東洋文庫事業計画について

2. 人事報告

役員異動

年　月　日	役職名	氏　　名	区　分	備　　考
58. 6.21	理　事	坂本　太郎	就　任	評議員より転任
〃	評議員	岡野　　澄	〃	
〃	〃	関野　　雄	〃	
〃	〃	林　健太郎	〃	
〃	〃	前田　充明	〃	
58.12.12	監　事	高雄　　靖	逝　去	

職員異動

年　月　日	役　職　名	氏　　名	区　分	備　考
58. 4. 1	研究員（兼任）	梅村　　担	就　職	
〃	研究員（奨励）	渡辺　　修	〃	
59. 3.15	研究員（兼任）	林　　　望	〃	
〃	〃	和田　博徳	〃	
59. 3.31	研究員（奨励）	臼井佐知子	退　職	
〃	〃	八尾師　誠	〃	

受　賞

年　月　日	役職名	氏　　　名	区　分	備　　　考
58. 5. 3	東洋学連絡委員会委員	小川　環樹	叙　勲	勲二等旭日重光章
〃	研究員(兼任)	佐伯　　富	〃	勲三等旭日中綬章
58.11. 3	東洋学連絡委員会委員	江上　波夫	受　章	文化功労者

表　彰

年　月　日	役職名	氏　　　名	区　分	備　　　考
58.11.19	研　究　員	本庄比佐子	勤　続	20年

V 役職員名簿

昭和59年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏　名	現　職
理事長代理 専務理事	榎　一雄	国立国会図書館支部東洋文庫文庫長 財団法人東洋文庫研究部部長 財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理　事	有光次郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市古宙三	中央大学教授 お茶の水女子大学名誉教授
〃	大槻文平	三菱鉱業セメント株式会社取締役会長 社団法人日本経営者団体連盟会長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	河野六郎	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
〃	坂本太郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授 国学院大学名誉教授
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授 成城学園名誉教授
〃	田中正俊	信州大学教授
〃	徳川宗敬	神社本庁統理 社団法人日本博物館協会会長
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行代表取締役会長 社団法人経済団体連合会副会長
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長

役職名	氏名	現職
理事	護　雅夫	日本大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	播磨俊雄	三菱金曜会事務局局長
評議員	石川忠雄	慶応義塾塾長 慶応義塾大学学長
〃	亀井　孝	成城大学教授 一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	沢田敏男	京都大学学長
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社取締役会長
〃	中嶋　敏	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社取締役会長
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行特別顧問
〃	西原春夫	早稲田大学総長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社会長
〃	日比野丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
〃	平野龍一	東京大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏　　名	現　　職
委員長	榎　一雄	（前掲出）
常任委員	山本達郎	〃
委員	市古宙三	〃
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	小川環樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
〃	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	佐藤　長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋　敏	（前掲出）
〃	日比野丈夫	〃
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	本田實信	京都大学教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
G. トゥッチ	ローマ大学教授，イタリア中東亜研究所所長
A. フオン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
A. B. デイヴィス	シドニー大学教授
J. チェルネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職員

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	榎　一雄	（前掲出）
	部長代理	護　雅夫	〃
	部長補佐	田中正俊	〃
	研究顧問	岩村　忍	京都大学名誉教授
	〃	村田治郎	京都大学名誉教授
	研究員（兼任）	荒　松雄	津田塾大学教授
	〃	池田　温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	市古宙三	（前掲出）
	〃	岩生成一	〃

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	宇都木　章	青山学院大学教授
	〃	梅村　担	立正大学専任講師
	〃	海野一隆	大阪大学教授
	〃	越智重明	九州大学教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀井　孝	（前掲出）
	〃	川崎信定	筑波大学助教授
	〃	河鰭源治	愛知大学教授
	〃	神田信夫	（前掲出）
	〃	菊池英夫	北海道大学教授
	〃	北村　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草野　靖	熊本大学教授
	〃	河野六郎	（前掲出）
	〃	後藤　明	山形大学助教授
	〃	後藤均平	立教大学教授
	〃	佐伯　富	京都大学名誉教授
	〃	佐藤次高	東京大学助教授
	〃	酒井憲二	図書館情報大学教授
	〃	斯波義信	大阪大学教授
	〃	滋賀秀三	千葉大学教授
	〃	清水宏祐	東京外国語大学講師
	〃	周藤吉之	元東京大学教授
	〃	末松保和	学習院大学名誉教授
	〃	関野　雄	東京大学名誉教授
	〃	田川孝三	日本大学講師
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	（前掲出）

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	竺　沙　雅　章	京都大学教授
	〃	鶴　見　尚　弘	横浜国立大学教授
	〃	土　肥　義　和	国学院大学助教授
	〃	鳥　海　　　靖	東京大学教授
	〃	中　嶋　　　敏	（　前　掲　出　）
	〃	永　田　雄　三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	花　田　宇　秋	明治学院大学助教授
	〃	林　　　　　望	東横学園女子短期大学専任講師
	〃	原　　　　　實	東京大学教授
	〃	坂　野　正　高	国際基督教大学教授
	〃	藤　枝　　　晃	京都大学名誉教授
	〃	本　田　實　信	（　前　掲　出　）
	〃	松　濤　誠　達	大正大学助教授
	〃	松　村　　　潤	日本大学教授
	〃	三根谷　　　徹	国学院大学教授
	〃	護　　　雅　夫	（　前　掲　出　）
	〃	森　岡　　　康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	山　口　瑞　鳳	東京大学教授
	〃	山　崎　元　一	国学院大学教授
	〃	山　根　幸　夫	東京女子大学教授
	〃	山　本　達　郎	（　前　掲　出　）
	〃	渡　辺　紘　良	独協医科大学助教授
	〃	和　田　博　徳	慶応義塾大学教授
	研究員（専任）	松　本　　　明	
	〃	鈴　木　立　子	

部名	職名	氏　名		
図書部	部長	榎　一雄*		
	主査	渡辺兼庸*		
	副主査	池田直人,*	小山　勲,*	竹之内信子*
	〃	児野寿満子,	秩父良子,*	広瀬洋子*
	係員	浅野千秋,	小林輝男*	
	〃	西薗一男		
総務部	部長	早船艶雄		
	課長	平野　豊		
	係員	稲村　優,	金子祐子,	光田憲雄
	〃	谷治嘉紀,	吉田男佐武	

（＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

5. 臨時職員

部名	氏　名			
研究部	安藤　充,	石川　寛,	石川むつみ,	岩見　隆
	于　志嘉,	大井　剛,	金沢　篤,	兼田信一郎
	権太　澄子,	関　喜房,	髙橋　明,	谷沢　淳三
	東長　靖,	蓮沼　龍子,	福田　安志,	福田　洋一
図書部	礒崎　和子,	私市　正年,	河上　大作,	佐藤　洋一
	清水　一枝,	清水　敏江,	鈴木　修,	野村　徹
総務部	岡本　美空			

（昭和58年4月1日～昭和59年3月31日間に在籍した者）

VI　財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

1. 調査研究事業

1－A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年　度】 10カ年計画第９年度

【概　要】 本計画は，センターがユネスコ本部に提案し，1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために「アジア地域文化研究機関代表者会議」が，1976（昭和51）年３月，センターが受入機関となって東京で開催された。この会議の決議に基いて，各国で調査研究が進められているが，センターでは本年度，次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1－A－1. 「アジア諸国における国民統合の理念とその機能」（５年計画最終年度）

【概　要】 流動しつづけるアジア諸国において，国民を統合するための理念が形成される契機及びその内容，実際の機能のしかたを明らかにすることを目的とし，主として社会科学的観点から研究を進める。

【専門委員】 衛藤瀋吉（委員長），古賀正則，白石　隆，土屋健治，平野健一郎
広瀬久和，山影　進

【事業内容】

専門委員会

３月24日：平野健一郎「ナショナリティ対エスニシティ ― 付論　満州国の民族政策について」

1－A－2. 「現代アジア諸国におけるマス・コミュニケーションと大衆文化」（５年計画最終年度）

【概　要】 アジア諸国において，各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・テレビ・新聞・雑誌などのマス・コミュニケーションが，実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし，主として社会科学的研究をおこなう。

【専門委員】 辻村　明（委員長），伊藤愼一，稲増龍夫，岩男寿美子，岡部慶三
佐田一彦

【事業内容】

専門委員会

7月18日：「現地調査の方法等について」

9月30日：「調査費用及び今後の調査のすすめ方」

11月11日：プラサート・ヤンクリンフン，ブッサバー・バンチョンマニー「タイ国のマスコミ事情について」

12月20日：プラサート・ヤンクリンフン，ブッサバー・バンチョンマニー「タイ国の大衆文化と調査票の検討」

2月21日：「調査日程と調査費用」

3月27日：「質問票の検討」

1－A－3. 「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画第3年度）

【概　要】 変容を遂げつつあるアジア諸国において，都市を中心として展開する人為的な集団の一つである企業をとりあげ，そこに反映されている伝統的な文化価値を分析・整理することによって，諸地域の現代的特色を追究しようとするものである。

【専門委員】 中川敬一郎（委員長），加納啓良，菅　俊雄，小池賢治，末広　昭，谷浦孝雄

【事業内容】

専門委員会

5月25日：コンスタンティノ・ローダス“Philippino-Chinese Entrepreneurs in the Philippines”

7月6日：小池賢治「フィリピン財閥の経営システム」

9月8日：谷浦孝雄「韓国の財閥経営」

11月9日：加納啓良「インドネシアの経済発展と企業グループ」

1月13日：末広　昭「タイにおける官僚資本，多国籍企業，華人系企業集団の展開　1855－1983」

3月23日：「今後のプロジェクトの進めかたについて」

1－A－4. 「アジア諸国における建築と都市計画」（5年計画初年度）

【概　要】 現代のアジア諸国では，ヨーロッパ様式の建築が多くとりいれられているが，その受容の過程を，アジアの伝統的建築の構造・機能の観点も含み考察し，合わせて都市化の問題も検討することを目的とし，都市工学・人文・社会科学の領域にわたる学際的研究を行う。

【事業内容】

専門家会議

1月28日：「専門委員会の構成及び事業の遂行方針について」

3月13日：「当プロジェクトの諸問題の検討」

西川幸治，飯塚キヨ，梅原　郁，応地利明，太田勝敏，野口英雄，斯波義信

1－B．一般調査研究

1－B－1．「東アジア文化研究」

【概　要】 東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」と「稲作文化」に注目し，資料の収集・整理と共に調査研究を進める。

1－B－1－a．「中国青銅器文化研究の現状調査」（4年計画第3年度）

【事業内容】

ソ連領中央アジアの青銅器時代に関する著書・論文のリストアップを，東洋文庫所蔵本について行った。目録作成者：高浜　秀

1－B－1－b．「東アジアの稲作文化」（5年計画延長年度6月終了）

【専門委員】 渡部忠世（委員長），飯島　茂，大林太良，佐々木高明，高谷好一

【国際会議「アジア諸国の稲作文化」】

ユネスコが1978（昭和53）年より実施している調査研究事業「アジアにおける稲作文化の研究」の一環として開催した。

〔主催〕 ユネスコ東アジア文化研究センター

〔期日〕 昭和58年6月6日（月）より同月10日（金）まで5日間

〔会場〕 京大会館（京都市左京区吉田河原町15－9）

〔参加者宿舎〕 サンホテル京都

〔日程〕

6月5日（日） 参加者到着，登録

6月6日（月） 開会式，セッションⅠ，Ⅱ，ユネスコ東アジア文化研究センター所長招待レセプション

6月7日（火） セッションⅢ，Ⅳ，Ⅴ

6月8日（水） セッションⅥ

6月9日（木） 視察旅行（滋賀府大中弥生遺跡，永源寺ダム，建部井，九十九院灌漑用水）

6月10日（金） 視察旅行より帰着，セッションⅦ，閉会式

〔議事〕

1. 開会

2. 議長，副議長，記録係の選任
3. 議題の採択
4. 各国における研究の進捗状況
5. 研究発表および討論（セッションⅠ－Ⅶ）
6. 報告書の採択
7. 閉会

〔参加者および報告〕

アブドゥル・ハリム：バングラディシュ，バングラディシュ農科大学研修所所長 Dr. Abdul Halim, Director, Graduate Training Institute, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh, Bangladesh: "Rice of Bangladesh and Its Uses"; "Rice and Politics in Bangladesh"

イスマニ：インドネシア，ブラウィジャヤ大学行政学部講師 Drs.Ismani, Lecturer, Faculty of Administration, Brawijaya University, Malang, Indonesia: "Rice Culture, Viewed from Myths, Legends, Rituals, Custom, and Artistic Symbolism Relating to Rice Cultivation"

ザイナル・クリン：マレーシア，マラヤ大学人類学科準教授 Dr. Zainal Kling, Associate Professor, Department of Anthropology, University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia: "Rice Field Rituals in Malaysia"

李春寧：韓国，世宗大学教授 Dr. Lee Chun Yung, Professor, King Se-jong University, Seoul, Korea, Republic of.: "Rice Utilization in Korea"

スラジット・チャンドラ・シンハ：インド，社会科学研究センター所長 Dr. Surajit Chandra Sinha, Director, Centre for Studies in Social Sciences, Calcutta, India: "Social and Ecological Context of Rice Cultivation"

サミュエル・タン：フィリピン，フィリピン大学歴史学科教授 Dr. Samuel K. Tan, Professor, Department of History, University of the Philippines, Quezon City, The Philippines: "The Rituals, Art, and Beliefs Related to Rice Cultivation in the Philippines"

ダオ・テ・トゥアン：ベトナム，農業省ベトナム農業科学研究所所長 Dr. Dao Thê Tuân, Director, Vietnam Agricultural Science Institute, Ministry of Agriculture, Hanoi, Vietnam: "Types of Rice Cultivation and Its Related Civilizations of Vietnam"

スリサク：ワンリボードム：タイ，シルパコン大学人類学科準教授 Prof. Srisakra Vallibhotama, Associate Professor, Department of Anthropology, Silpakorn University, Bangkok, Thailand: "Social Implications of Rice Cultivation in Thai Village Life"

渡部忠世：日本，京都大学東南アジア研究センター教授・所長：“Origin and Dispersal of Rice in Asia”

ベマナンジャラ・ゼファニィアジ：マダガスカル，マダガスカル大学言語研究所副所長：Dr. R. Bemananjara Zefaniasy, Maitre-Assistant Directeur, Institut de Linguistique Appliquée, Université de Madagascar, Antananarivo, Madagascar: “Le riz à travers la tradition orale malgache”

〔オブザーバー〕

飯島　茂：日本，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授：“What Is the Significance of Wet Rice Cultivation for Swidden Cultivators?”

大林太良：日本，東京大学教養学部教授：“Myths of Agricultural Origins in the Indo-Pacific Area: A Culture-Historical Approach”

ディダ・サラヤ：タイ，チュラロンコン大学文学部歴史学科準教授・主任：Dr. Dhida Saraya, Associate Professor & Chairman, History Department, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand: “Rice Cultivation and Politics in Sukhothai State”

安溪遊地：日本，山口大学教養部講師

石垣博孝：日本，石垣市教育委員会

佐々木高明：日本，国立民族学博物館教授

高谷好一：日本，京都大学東南アジア研究センター教授

松山利夫：日本，国立民族学博物館助手

〔報告書の出版〕

1981（昭和56）年11月24日－12月1日及び1982（昭和57）年3月14日－3月20日にかけて行われた沖縄県与那国島の現地調査の和文報告書を，法政大学出版局より出版した。書名『南島の稲作文化 ― 与那国島を中心に』

1－B－2.　「ラジオ・テレビジョンが伝統芸能に与える影響に関する調査」（2年計画最終年度）

【概　要】 ラジオ・テレビジョンでとりあげられる日本の伝統芸能の実態を，量的，質的角度から把えることによって，伝統芸能の今日的状況を検討する。

1－B－3.　「日本の古代都市に関する研究」（3年計画第2年度）

【概　要】 本プロジェクトはユネスコの実施している調査研究「アジアの古代都市の研究」の一部をなし，日本の古代都市として平城京を中心とした飛鳥，奈良地域をとりあげ，その歴史および遺物，遺跡の保存に関する報告書を作成する。

【国際会議「アジアの歴史的都市に関する研究」】

8月31日から9月7日まで東京・京都で開催された「第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議」に際して，「前近代における都市」（第一部会）の第一分科会「アジア（とくに西アジア・南アジア・東南アジア）における前近代諸都市の国際的比較」をユネスコの委嘱をうけて開催した。

〔会場〕 東京　8月31日（水）－9月3日（土）　赤坂プリンスホテル（千代田区紀尾井町1－2）

京都　9月5日（月）－9月7日（水）

〔日程〕

8月30，31日：参加者到着，登録

8月31日：開会式

9月1，2日：研究発表

9月5日：視察（平城宮跡・飛鳥資料館・今井町等）

9月6日：視察（難波宮跡・大阪市立博物館・神戸市立博物館等）

9月7日：視察（京都市考古資料館・平安京発掘現場）

閉会式（於国立京都国際会館）

〔ユネスコ招聘者〕

スパトラディット・ディスクン：タイ，シルパコン大学学長　M. C. Subhadradis Diskul, Rector, Silpakorn University, Bangkok, Thailand

ウィジェシッガ・S・カルネラトネ：スリランカ，文化省考古局局長　Dr. Wijesingha S. Karunaratne, Archaeological Commissioner, Archaeological Department, Colombo, Sri Lanka

H. サルカル：インド，インド考古局長官　Dr. H. Sarkar, Director, Archaeological Survey of India, New Delhi, India

タン・トン：ビルマ，マンダレー大学歴史学教授　Dr. Than Tun, Professor of History, Mandalay University, Burma

〔研究発表〕 発表者11名，参加者83名

1－B－4.「日本における東洋学研究の現状と問題点　1973－83」（4年計画初年度）

【概　要】 昭和48年から58年までに発表された東洋学関係の研究業績を部門別に調査し，その現状を記述するとともに，問題点を指摘した報告書を作成することを目的とする。本プロジェクトは昭和47－50年度の調査を継続するものである。

【事業内容】

専門家会議

3月17日：「執筆者の選定及び執筆要項について」

編集委員：護　雅夫（委員長），生田　滋，宇都木章，佐藤次高，松村　潤，山崎元一

1－C．特別調査研究「現代アジアの社会的，文化的環境の現状に関する基礎的調査」（ 7年計画第5年度 ）

【概　要】　この特別調査研究は，アジア諸国の文化・社会について実験的，かつ総合的な方法によって，アジア地域が共通にもっている特質を研究し，アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

1－C－1.　「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

3月31日：白石　隆「インドネシアの国民統合 — 学校教育・ドラキュラ・インドネシア語」

1－C－2.　「アジア諸国における大衆文化 — 特に口碑伝承の調査」

【事業内容】

専門家会議

11月7日：「アジアにおける口碑伝承の諸問題」内堀基光他

2.　学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2－A．学術交流

2－A－1.　外国人研究者の招聘

ソンブン・スクサムラン：タイ，チュラロンコン大学政治学部準教授　Dr. Somboon Suksamran, Associate Professor, Faculty of Political Science, Chulalongkorn University & Secretary-General, Social Science Association of Thailand

招聘期間：2月12日－2月24日

主たる訪問先：創価学会・公明党・天理教・西本願寺・京都大学東南アジア研究センター・国立民族学博物館・柳川啓一

2－A－2.　外国人研究者による研究会開催

(1)　鞠徳源：中国，中国第一歴史檔案館保管利用組副組長：「中国第一歴史　案館の現況」（10月4日）

(2) 金啓孮：中国，内蒙古大学教授，遼寧省民族研究所所長：「中国における満族研究の現状について」（12月21日）

2－A－3. 研究者の海外派遣

後藤　明：9月28日 — 10月17日，下記2－C参照。

2－A－4. 外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（1－A－2, 3, 1－B－1－b，1－B－3, 2－A－1, 2）以外でセンターを訪れ，センターが情報提供等の便宜を供与した外国人研究者は以下のとおりである。

Dr. Edi S. Ekadjati	Head, Museum of Asia-Africa Conference, Bandung
Mr. Hartono	Agency for Research and Development, Ministry of Foreign Affairs, Jakarta
Mr. Jan Šimek	Second Sectetary, Embassy of the Czechoslovak Socialist Republic, Tokyo
Prof. Van Tao	Director, The Institute of History, Hanoi, and Visiting Professor, Keio University, Tokyo
Mr. Simon Holridge	Journalist
Dr. Cha Mun-soup	Head, College of Arts and Sciences, Dankook University, Seoul
Prof. Hwang Pae Gang	Professor and Director, Institute of Oriental Studies, Dankook University, Seoul
Dr. Kim Won-yong	Professor, Department of Archaeology and Art History, Seoul National University
Dr. Tözeren Selcuk	Assistant Professor, Bosphorus University, Istanbul
Dr. Leslie E. Bauzon	Professor of History, College of Arts and Sciences, University of the Philippines, Manila
Dr. Henri de Mink	Director, Inter Documentation Com-

	pany, Leiden
Dr. Sachchidanand Sahai	Professor of Southeast Asian History, Magadh University, Bodh-gaya
Dr. Abdul Halim	Director, Graduate Training Institute, Bangladesh Agricultural Institute, Mymensingh
Mr. Ashok Jain	Publisher, New Delhi
Dr. Harald Bøckman	Department of East Asian Studies, University of Oslo, and Visiting Fellow, Southeast Asia Programme, Cornell University, Ithaca
Dr. Helen Hardacre	Assistant Professor, Department of Religion, Princeton University, Princeton, and Visiting Fellow, Japan Foundation and Kokugakuin University, Tokyo
Dr. Ju Deyuan	Research Associate, First National Archives, Palace Museum, Beijing
Mr. Ernst Schwintzer	Graduate Student, Department of History, University of Washington, Seattle
Dr. Adel Abdulsalam	Professor of Geography, Damascus University
Ms Joël Jacquin	Researcher in History of Contemporary Chinese-Japanese Relations, Paris
Dr. Prasert Yamklinfung	Professor of Sociology, Department of Sociology and Anthropology, Chulalongkorn University, Bangkok
Mr. Chaiwat Khamchoo	Lecturer, Faculty of Political Science, Chulalongkorn University, Bangkok, and Visiting Research Scholar, Faculty of Law, University of Tokyo
Prof. Saneh Chamarik	Director, Thai Khadi Research Institute, Thammasat University, Bangkok

2－B．文献目録等の作成

2－B－1．「日本における中央アジア研究文献目録」（5年計画延長年度）

日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり，基礎カードの作成を継続した。

2－B－2．「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

刊行中の「日本における東洋学の回顧と展望　1963－72」のシリーズ完成に付随するものとして，ひきつづき編集を進めた。

2－C．資料の調査・収集および整理

本事業は，アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか，今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来，とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関する，アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度はアラビア語に関する学術書・学術雑誌・マイクロフィルムの出版状況調査を目的として山形大学助教授後藤　明氏をヨルダン，シリア両国に派遣した。その結果アラビア語文献125冊を購入した。さらに本年度は，アラビア語の文献173冊，マイクロフィルム811コマ，トルコ語文献343冊を別個に購入した。

2－D．語学講習会の開催

トルコ語講習会

期　間：昭和58年7月18日（月）～8月26日（金）　土・日曜を除く毎日　午後1時30分より4時30分まで

場　所：電通共済生協会館（豊島区駒込1－10－4）

講　師：林　徹，ギュンセリ・オズギュル　Günseli Özgür

修了者：26名

2－E．図書の寄贈及び交換

センターの出版物を，本年度も従来どおり国内の大学，研究所，在日各国公館など約200個所，国外の大学，研究所，国際的機関など約300個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50個所，国外の研究機関約100個所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3. 出版物の作成

3－A. 機関誌East Asian Cultural Studiesの刊行

本年度は，Vol. XXIII，Nos.1-4 合併号（ix，186p.，9p. plates）を刊行した。内容はシンガポール国立大学タム・ソン・チーTham Seong Chee教授による『Religion and Modernization: A Study of Changing Rituals among Singapore's Chinese, Malays, and Indians』である。本論文はユネスコ本部のプロジェクト「現代社会におけるアジアの文化価値」にシンガポールの報告書として1982年提出されたものであり，当センターの長期調査研究「アジアの伝統文化における理想像 ― 年中行事と生涯行事の分析」（昭和51－55年度。前号Vol. XXII，Nos.1-4 合併号に報告書掲載）の関連論文として本号に収載した。内容目次は次のとおりである。

Foreword
Acknowledgements
Part I The Institutional Background
- I Introduction to the Study
  - A. Aspects of Malay Culture and Religion in Singapore
  - B. Aspects of Chinese Culture and Religion in Singapore
  - C. Aspects of Indian Culture and Religion in Singapore
  - D. Socio-Economic Processes and Cultural-Religious Development in Contemporary Singapore
- II The Research Approach
  - A. The Theoretical Component
  - B. The Methodological Component

Part II Result of the Survey
- III Profile of Interviewees／Respondents
  - A. General Background Information
  - B. Some Aspects of Singaporeans' Cultural Orientation

Ⅳ　Rites of Passage Observed

A. Chinese Case

B. Malay Case

C. Indian Case

Ⅴ　Calendrical Rituals Observed

A. Chinese Case

1. Calendrical rituals associated with key cultural and religious beliefs

2. Calendrical rituals less associated with key cultural and religious beliefs

3. Calendrical rituals associated with the worship of deities

B. Malay Case

C. Indian Case

1. The Hindu belief system compared

2. Calendrical rituals with religious and agrarian motivations

3. Major Hindu calendrical rituals

Ⅵ　Rituals and Everyday Life

A. Other Rituals Observed

B. General Attitudes towards Rituals

Ⅶ　Rituals in Relation to Individual and Communal Life in Singapore: A Synthesis

A. Rites of Passage in Change and Continuity

B. Calendrical Rituals in Change and Continuity

C. Factors in Ritual Maintenance

D. Social Change and the Future of Rituals

Tables

Bibliography

Plates

3－B. アジア史料叢刊 (Asian Historical Material Series)

『ラーマ一世年代記』第2巻註釈篇の編集および，チャン・ヴァン・ザップ著，グエン・カク・カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

3－C. 東アジア文化研究叢書(East Asian Cultural Studies Series)

次の二点を増刷した。

No.13: The *Kojiki* in the Life of Japan, by Yaku Masao

No.16: Natsume Soseki as a Critic of English Literature, by Matsui Sakuko

3－D. アジアにおける最近の考古学的発見(Recent Archaeological Discoveries in Asia)

本年度は第二冊目として『中国における最近の考古学的発見』(Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China, by The Institute of Archaeology, Academy of Social Sciences, People's Republic of China, xi, 103p., 12p. colour plates)を刊行した。目次は下記のとおりである。

List of Illustrations

Preface

Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China

1. The Traces of the Ape-man
2. The Origin and Development of Microliths
3. Discovery of Early Neolithic Remains
4. Distribution of the Yangshao Culture and Its Types
5. Cemeteries of the Dawenkou Culture
6. The Origin and Development of the Longshan Culture
7. The Hemudu Culture: Remains of an Ancient Culture Which Practised Rice Cultivation
8. The Early Period of Development in South China
9. The Erlitou Culture
10. The Early Cities of the Shang Dynasty
11. An Unprecedented Discovery among the Yin Ruins: Fu Hao's Tomb
12. New Discoveries at Zhouyuan
13. Hoarded Bronze Vessels of the Western Zhou Dynasty
14. Tombs of the Western Zhou Dynasty
15. The Capital of Jin in Houma and the Capital of Chu in Jiangling
16. The Mystery of the State of Zeng: The Tomb of the Marquis Yi of

Zeng
17. The Discovery of the Tomb of the King of the State of Zhongshan
18. Pottery Figures of Warriors and Horses in the Tomb of Emperor Qin Shihuang
19. The City of Chang'an in the Han Dynasty and the City of Luoyang in the Eastern Han and Wei Dynasties
20. Excavation of Tombs from the Han and Tang Dynasties
21. The Cities of Chang'an and Luoyang during the Sui and Tang Dynasties
22. Important Discoveries along the "Silk Road"
23. Investigations and Excavations in the City of Dadu of the Yuan Dynasty
24. Excavation of Tombs from the Ming Dynasty
A Brief Chinese Chronology
Plates

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前　期　開催日　昭和58年５月24日（火曜日）　午後１時30分～３時
　　　　場　所　東洋文庫会議室
　　　　報　告　1. 昭和57年度事業報告及び決算報告について
　　　　議　題　1. 昭和58年度事業計画案及び予算案について
　　　　　　　　2. 運営委員及び顧問の改選について

後　期　開催日　昭和58年11月25日（火曜日）　午後１時30分～３時
　　　　場　所　東洋文庫会議室
　　　　報　告　1. 昭和58年度事業及び会計中間報告について
　　　　議　題　1. 昭和59年度概算要求について

顧問会議

開催日　昭和58年５月24日（火曜日）　午後１時30分～３時
場　所　東洋文庫会議室
報　告　1. 昭和57年度事業報告及び決算報告について
議　題　1. 昭和58年度事業計画案及び予算案について
　　　　2. 運営委員及び顧問の改選について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
58. 4. 2	運営委員	伊藤良二	逝去	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
4. 4	〃	今枝愛眞	退任	前東京大学史料編纂所所長
〃	〃	北村甫	〃	前東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
4. 9	〃	新田英治	就任	東京大学史料編纂所所長
4. 13	〃	梅田博之	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
6. 11	顧問	林健太郎	退任	前国際交流基金理事長
6. 20	〃	佐藤正二	就任	国際交流基金理事長
6. 27	運営委員	福井直俊	〃	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
8. 30	顧問	吉識雅夫	退任	前日本ユネスコ国内委員会会長
9. 8	〃	佐治敬三	就任	日本ユネスコ国内委員会会長
11. 30	参与	宮本正尊	逝去	京都大学名誉教授

C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
58. 4. 1	研究員	志茂碩敏	就職	
〃	研究助手	飯田隆子	〃	
9. 10	〃	引田葉子	復職	

D. 受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
58. 11. 3	運営委員	服部四郎	受章	文化勲章

E. 表　彰

年月日	職名	氏名	区分	備考
58. 11. 19	研究員	本庄比佐子	勤続	財団法人東洋文庫より勤続20年

F. 会計報告

昭和58年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（昭和59年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
経常費	57,063	国庫補助金	80,019
人件費	51,216	ユネスコ援助金	7,716
事務費	5,847	日本万国博覧会記念協会補助金	2,000
事業費	33,253	財産収入	12
研究経費	5,184	雑収入	569
長期調査研究費	3,704		
一般調査研究費	948		
特別調査研究費	532		
研究者の交流及び普及活動経費	3,503		
研究文献の収集・目録の作成・翻訳出版等経費	12,869		
国際会議費	11,697		
計	90,316	計	90,316

5. 役 職 員 名 簿

昭和59年３月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりです。

A. 所 長　　　　　　　副 所 長

護 雅夫　　　　　　　松村 潤

B. 運営委員

氏 名	現 職
岩 生 成 一	日本学士院会員
植 木 浩	文部省学術国際局審議官
上 山 春 平	京都大学人文科学研究所所長
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
梅 田 博 之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
大 石 嘉一郎	東京大学社会科学研究所所長
大 野 盛 雄	東京大学東洋文化研究所所長
岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授
尾 高 邦 雄	東京大学名誉教授
斎 木 俊 男	文部省学術国際局ユネスコ国際部部長
仙 石 敬	国際交流基金専務理事
高 田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
中 村 元	東方学院長・東京大学名誉教授
新 田 英 治	東京大学史料編纂所所長
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
福 井 直 俊	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
前 田 陽 一	国際文化会館専務理事・東京大学名誉教授
森 崎 久 寿	アジア経済研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
渡 部 忠 世	京都大学東南アジア研究センター所長

C. 顧　問

氏　名	現　職
大 崎　仁	日本ユネスコ国内委員会事務総長
佐 治 敬 三	日本ユネスコ国内委員会会長
佐 藤 正 二	国際交流基金理事長
前 田 充 明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長

D. 参　与

氏　名	現　職
青 山 秀 夫	京都大学名誉教授
織 田 武 雄	〃
田 村 実 造	〃
長 尾 雅 人	〃
丸 山 真 男	東京大学名誉教授
三 上 次 男	〃
宮 崎 市 定	京都大学名誉教授

E. 専 門 員

Christian Ashley Daniels

F. 職　　員

職　　名	氏　　名
調査資料室長	生田　滋
普　及　室　長	外池明江
庶務外事室長	松前義治
研　究　員	志茂碩敏　本庄比佐子
研　究　助　手	飯田隆子　設楽靖子　坂本葉子
係　　員	酒井敬子　直井靖夫

G. 臨時職員

昭和58年4月1日から昭和59年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりである。

内田　恵，内野佳子，宇野伸浩，岡　洋樹，片山章雄，小松香織，清水敏江，高山　博，中村文子，長縄誓子，林　徹，保坂修司，水野美香，山本佳世子，米林　仁

財団法人 東洋文庫年報 昭和58年度

昭和60年3月25日 発行 （非売品）

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東 洋 文 庫
榎 一 雄

印刷者 東京都練馬区大泉町3丁目34番10号
有限会社 日 本 興 業 社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東 洋 文 庫

本書は昭和59年度財団法人東洋文庫に対する文部省
補助金の一部によって刊行されたものである。